

# 黒藤館跡 発掘調査報告書

財団法人

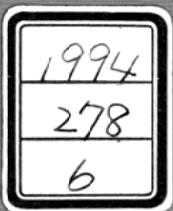
山形県埋蔵文化財センター



6-1994-278-01

1994

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



くろ ふじ たて あと  
黒 藤 館 跡  
発掘調査報告書

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



094 - 278

## 序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、黒藤館跡の調査成果をまとめたものです。

黒藤館跡は山形県の南西部に位置する西置賜郡白鷹町にあります。西置賜北部に位置する白鷹町は、県内を縦走する最上川の東西に広がる町域で、西方に朝日山系の山々が連なり、稜線と緑の自然豊かな景観の地域です。

調査では、館跡に関する土塁や建物跡の確認だけでなく、縄文時代と考えられる陥穴群、古墳時代の方形周溝墓群や平安時代の土器が検出され、それぞれの時代の遺構・遺物を包含する複合遺跡であることが明らかになりました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
理事長 木場清耕

## 例 言

- 1 本書は一般県道南陽白鷹線緊急地方道路整備事業に係る「黒藤館跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は山形県の委託により財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺跡名	黒藤館跡(D S T K F)	遺跡番号	平成4年度登録
所在地	山形県西置賜郡白鷹町大字畔藤字館ノ内		
調査期間	発掘調査	平成5年4月1日～平成6年3月25日	
	現地調査	平成5年7月26日～平成5年10月1日	41日間
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
調査担当者			
	調査研究課長	佐々木洋治	
	主任調査研究員	野尻 侃	
	調査研究員	名和 達朗	
	嘱託職員	渡辺 薫	
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部長井建設事務所、白鷹町教育委員会、(社)長井・西置賜地域シルバー人材センター、白鷹町立東根小学校等関係各機関の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。
- 5 本書の作成・執筆は、名和達朗、渡辺 薫が担当した。編集は安部 実、伊藤邦弘が担当し、全体については、佐々木洋治が監修した。
- 6 写真測量については、アジア航測株式会社に実測業務を委託した。
- 7 出土遺物、調査記録については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

## 凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。  
SB 掘立柱建物跡    SD 方形周溝墓・溝跡    SE 井戸跡  
SK 陥穴・土壇    RP 完形・一括土器    RW 木製品  
RQ 石製品
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。
  - (1) 調査区概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
  - (2) グリッドの南北軸は、N-52° 15' 40"-Eである。
  - (3) 遺構実測図は、1/30・1/40・1/60・1/100縮図で採録し、各挿図毎にスケールを付した。
  - (4) 土層断面図中のスクリーントーンは石、礫を示す。
  - (5) 遺構計測表中の( )内の数値は、検出部分の計測値、または、推計値を示している。また深さは確認面からの深さである。
  - (6) 遺物実測図・拓影図は、1/2・1/3で採録し、各々スケールを付した。遺物図版については、任意の縮尺とした。
  - (7) 遺物図版中の番号は挿図番号を示している。
  - (8) 遺物計測表中の( )内の数値は、図上復元による推計値、または、残存値を示している。

## 目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至るまでの経過	1
2 調査の経過	2
3 遺跡の概観	2
II 遺構と遺物	
1 遺構	4
2 遺物	19
III まとめ	21
報告書抄録	22

## 表

表-1 遺構計測表	6
表-2 遺物計測表	19

## 挿 図

第1図	遺跡位置図	1
第2図	調査区概要図	3
第3図	遺構配置図	2
第4図	陥穴群	5
第5図	SD1・2方形周溝墓 SK21・53土壙	7
第6図	SD4方形周溝墓 SK28・32・44土壙 SK48陥穴 SD9溝列	9
第7図	SD1・2方形周溝墓 SK21・53土壙土層断面図	11
第8図	SD4方形周溝墓 SK28・32・44土壙 SK48陥穴 SD9溝列土層断面図	12
第9図	SE35井戸跡	13
第10図	SE37井戸跡	14
第11図	SE38井戸跡	15
第12図	SE36井戸跡・SB6建物跡	16
第13図	SB5・7建物跡	17
第14図	土壙	18
第15図	出土遺物	20
第16図	黒藤館跡縄張図	21

## 図 版

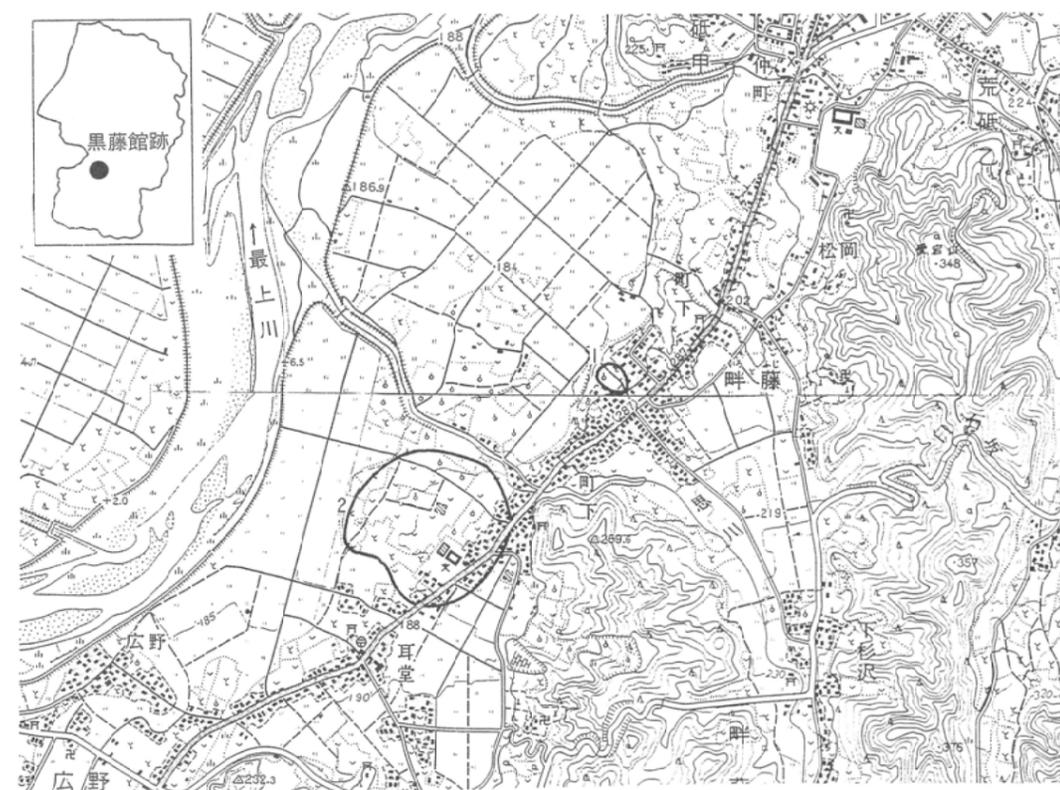
図版1	航空写真
図版2	調査区空中写真
図版3	調査区西側空中写真
図版4	SD1・2方形周溝墓全景 SD4方形周溝墓全景
図版5	遺跡近景 調査風景
図版6	調査風景 調査説明会風景
図版7	陥穴群
図版8	土壙
図版9	土壙調査状況 土壙土層断面
図版10	土壙土層縦断面 方形周溝墓群全景
図版11	SD1・2方形周溝墓土層断面
図版12	SK21土層断面 SK53完掘・土層断面 SD4方形周溝墓全景
図版13	SD4方形周溝墓土層断面 SK28土層断面 SK32・44・48完掘・土層断面
図版14	井戸跡群・掘立柱建物跡
図版15	井戸跡群
図版16	出土遺物(1)
図版17	出土遺物(2)
図版18	出土遺物(3)
図版19	出土遺物(4)

## I 調査の経緯

## 1 調査に至るまでの経過

西置賜北部に位置する白鷹町は、県内を縦走する最上川の東西に広がる緑豊かな町域です。それを物語るかのように、畑地等を踏査してみると、遺物の発見される場合があります。「山形県遺跡地図」(昭和53年度刊行 山形県教育委員会)には、これまで59箇所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)が登録されている。

管内の畔藤地区に一般県道南陽白鷹線緊急地方道路整備事業が計画され、県教委では遺跡保護と開発事業との調整を行うため、平成4年9月22日に道路計画区域について、遺跡詳細分布調査による現地の表面踏査を実施した。その際、本地区に土塁状の細長い高まりを確認、さらに小字名が「館ノ内」という聞き取りが得られ、城館跡所在地との把握がなされた。その後、同年10月29・30日に道路用地内について、遺跡の範囲や深さ等のより詳しい内容を把握するため12ヶ所の試掘坑(約1平方m)を入れ調査が実施された。その結果、館跡の周囲を区画する堀跡や土塁内側平場の溝跡の一部が確認された。土塁は、一部削平を受けているが、館の北側に沿って良好な遺存状態であり、それに平行して外側には、自然地形を利用した空堀もみとめられた。出土遺物は確認できなかったが、この一帯は、城館跡の範囲に入ることが明らかになった。ちなみに遺跡の範囲は、分布調査結果及び地



第1図 遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)

形観察から東西・南北170mの広がりが見込める。今回の調査区域は、その北限の部分である。

次に、この分布調査内容を基に関係機関による協議が行われた結果、財団法人山形県埋蔵文化財センターが県から今回委託を受け、本遺跡の路線内に係る区域について発掘調査を行い、遺跡を記録保存することになったものである。

2 調査の経過 (図版5・6)

発掘調査は、調査区域決定後重機による表土の粗掘りから始め、調査区域については、計画道路センター杭方向を基準に5mを単位とするグリッドを設定した。

次に、手掘りですべての面削りを進めながら、遺構・遺物の検出を行い、それと並行して必要の都度、写真撮影や平面及び土層断面の実測等の諸記録作業を順次行った。調査区域の西側一帯の平面図記録は、ラジコンヘリによる空中撮影を委託して実施した。

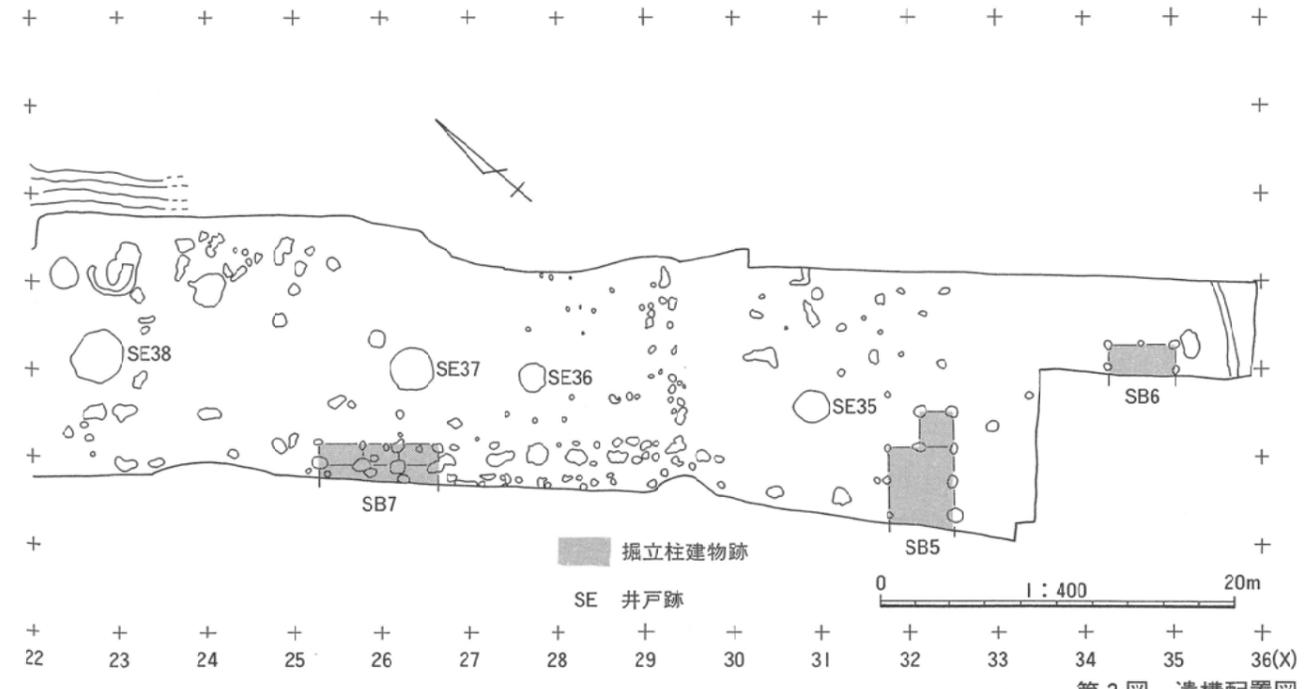
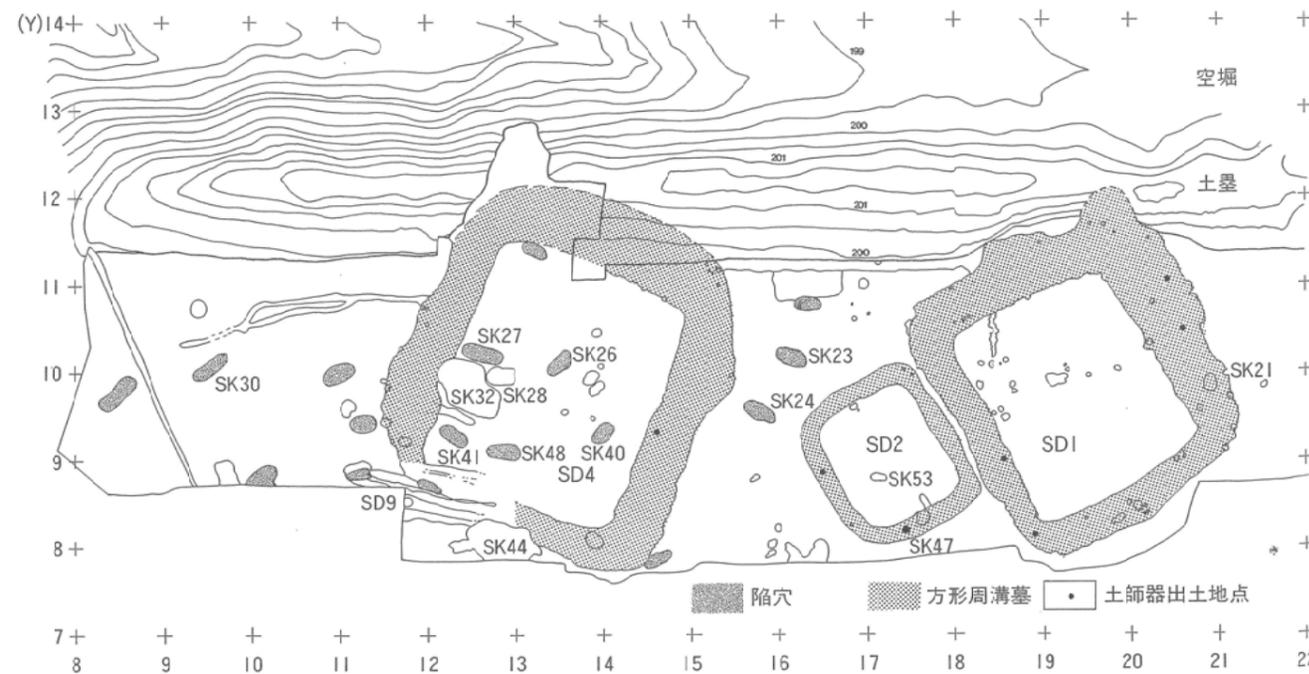
調査の結果については、平成5年9月28日に調査説明会を開催して、概況を報告した。

3 遺跡の概観 (第1・2図 図版1~3・5・9)

遺跡は、荒砥地区の南西側、国道287号と畔藤農免道路との間の高台で、最上川右岸の河岸段丘上に立地する。地目は、宅地・畑地である。段丘の麓は、畑地でその先は最上川の沖積地に広がる水田地帯である。標高は、198~202mを測り、水田面との比高差は14m程である。調査区の北は空堀跡がV字状に入り込み、南側は一段掘り込んで町道が通り、聞き取りでは、「館坂」の地名である。遺跡の南西約500mには、岡ノ台遺跡が位置する。



第2図 調査区概要図



第3図 遺構配置図

### II 遺構と遺物

#### 1 遺構 (第3~14・16図 図版4・7~15 表2)

今回の調査では、館構築以前の時代のもものも検出できた。陥穴17基、方形周溝墓3基である。館に関連すると考えられるものは、掘立柱建物跡3棟、柱穴群、土壘5基、井戸跡4基、土壘である。陥穴と方形周溝墓は、調査区のほぼ中央から段丘縁辺部にかけて分布する。一方井戸跡や掘立柱建物跡及び柱穴群は、中に入った方に分布する。また、井戸跡は、調査区幅のほぼ中央部に直列に並び、北のSE38から35までその中心を基準に、18m・7m・16mの間隔で並ぶ。各遺構の確認面は、黄褐色のシルトの地山上面である(第7・8図)。土壘は、調査区の北辺部分に接して直線的に延び、その外側に沿ってV字形を呈する空堀がはしり、SD1北側付近で徐々に浅くなっている。

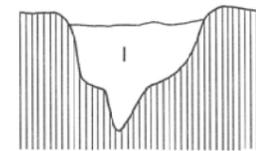
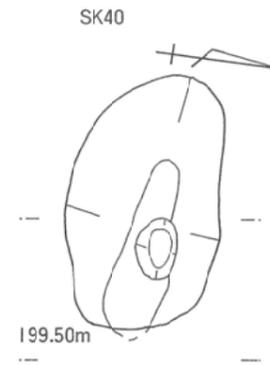
#### 陥穴群 (第4図 図版7・13)

8~16-8~12に分布する。全体の方向は一定ではないが、SD2の北側及び4の北辺沿いであるグリッドX軸11・12~13・15~16にかけては、台地を横断するように2~5mの間隔で3列の並列分布がみとめられる。平面形は、細長い楕円形である。プラン確認部分は比較的広めであるが、SK23・26に見られるように、壁面が途中から幅が狭くほぼ垂直気味に掘り込まれ、一見溝状の落ち込みである。底面は、ほぼ平坦で、中央や壁寄りに1ないし2本の小ピットをもつものがある。出土遺物は、確認できなかった。

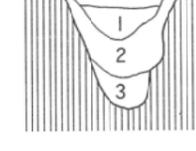
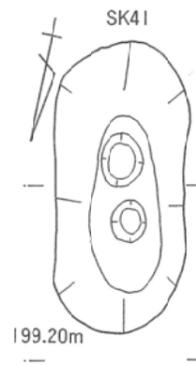
#### 方形周溝墓群 (第5~8図 図版4・10~13)

SD1は、17~21-8~12に位置する。溝は、南北方向に長辺をもち、幅が狭い南及び西辺と、幅が広い北及び東辺とで構成する。主軸方向は、N-20°-Eである。プランは外側の方が凹凸があり、内側は直線的である。壁は直線的に掘り込まれ、深さは一様ではなく、底面は凹凸をもつ。北辺部分は、土壘の下に入り全体の確認はできなかった。溝の覆土精査段階で小ピット列が、部分的にみとめられた。重複状況は確認できなかったが、プラン沿いに並ぶことから溝との関連も否定できない。出土遺物は、溝の東辺及び南東隅から土師器埴(第15図1)・壺(4)が出土。また、北東側の覆土上部から土師器高台付坏(3)・赤焼土器坏(5)が出土した。この部分は、周溝プランが膨らんでさらに土壘下まで延びており、前述の出土土器の特徴から平安時代の重複遺構の所在が考えられる。

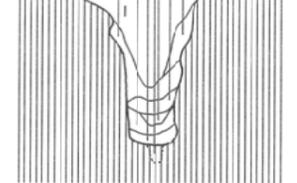
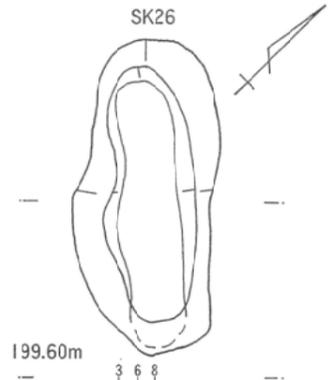
SD2は、16~18-8~11に位置する。SD1の西側にほぼ平行な向きに隣接し、主軸方向もN-20°-Eである。同遺構よりも小規模な遺構で、溝幅も比較的狭い。壁は、ほぼ直線的に掘り込まれ、プランの遺存状況は良好である。底面までの深さは一定ではなく、北東側から南西側にかけて深くなっている。溝の南辺中央部に土壘状の掘り込みがみとめられたが、陶磁器・針金の出土から後世の所産と考えられる。出土遺物は、南辺から土師器壺(第15図6)、西辺から埴(8)が覆土中より出土した。



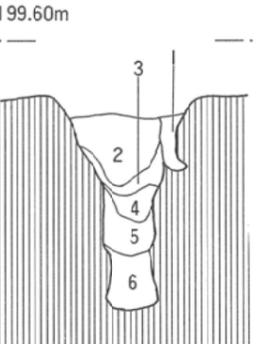
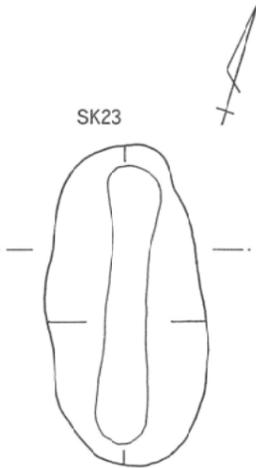
SK40土層註記  
1: 黒褐色シルト 小礫を含む。



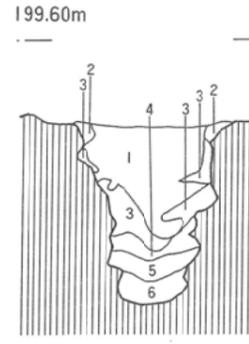
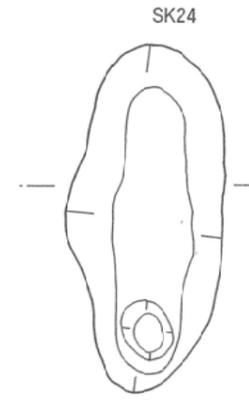
SK41土層註記  
1: 黒褐色シルト 小礫を含む。  
2: 暗褐色シルト 小礫を多量に含む。  
3: 暗褐色シルト 2よりも黒い色調。小礫を多量に含む。



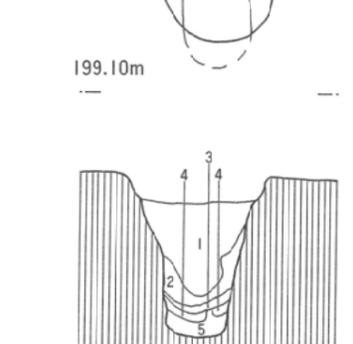
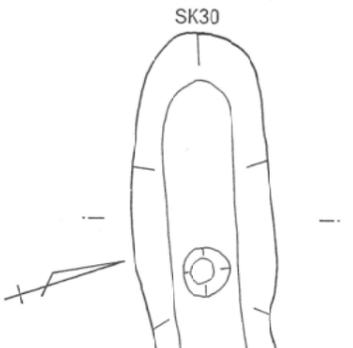
SK26土層註記  
1: 黒褐色シルト 小礫を少量含む。  
2: 黒褐色シルト 砂利を多く含む。  
3: 暗褐色シルト 黄褐色シルト・砂利を含む。  
4: 黒褐色シルト 1よりもやや黒い色調。  
5: 暗褐色シルト 3よりも褐色味が強い。  
6: 黄褐色シルト 暗褐色シルトを含む。  
7: 黒褐色シルト 黄褐色シルトを含む。



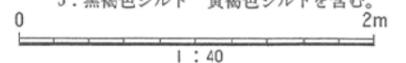
SK23土層註記  
1: 暗褐色シルト 礫・黄褐色シルトを斑状に含む。  
2: 黒褐色シルト 礫を含む。  
3: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。  
4: 黒褐色シルト 下部に暗褐色シルト・礫を堆積する。  
5: 黄褐色シルト 暗褐色シルトを少量含む。  
6: 黒褐色シルト 黄褐色シルトを互層に堆積する。



SK24土層註記  
1: 黒褐色シルト 礫を少し含む。  
2: 暗褐色シルト 均一。  
3: 黒褐色シルト 黄褐色粘質細砂を多く含む。  
4: 黄褐色シルト 暗褐色シルトを斑状に堆積する。  
5: 黒褐色シルト 黒い色調が強い。  
6: 黄褐色細砂シルト 黒褐色シルトを互層に含む。



SK30土層註記  
1: 黒褐色シルト 小礫・暗褐色シルト粒を少量含む。  
2: 黄褐色シルト 暗褐色シルト・小礫を含む。  
3: 暗褐色シルト  
4: 黄褐色シルト 暗褐色シルト・小礫を含む。  
5: 黒褐色シルト 黄褐色シルトを含む。



第4図 陥穴群

SD4は、11～15-8～12に位置する。SD2北側に隣接し、規模は比較的大形で溝も深い。溝は、東西方向に長辺をもち、やや凹凸のあるプランで溝幅も広い。主軸方向は、N-69°-Eである。西辺は、浅くしかも溝列が重複し、プランが連続するかは不明である。東辺は、土塁下まで延びる。南辺はSK44、北辺はSK32が重複する。壁は緩やかに掘り込まれ、深さは南西側から北東側にかけて深くなっている。底面は、凹凸を呈する。出土遺物は、土師器埴(第15図9)、壺(推定)体部片(第8図)が覆土中から出土した。

#### SE35～38井戸跡(第9～12図 図版14・15)

素掘りで、推定も含め底面上部の壁は、ほぼ垂直気味に掘り込まれ、底面はSE35で凹凸を示すが、ほぼ平坦である。また、同底面には、礫群の集石がみとめられた。出土遺物は、SE37から陶磁器、35・37から木製品、37から石製品(図版19)が出土した。

#### 掘立柱建物跡群(第12～14図 図版14)

すべて調査区南辺外まで入り全体については、不明である。位置関係から井戸跡との関連が考えられる。推定の主軸方向は、SB5はN-43°-E、6はN-44°-E、7はN-40°-Eである。出土遺物は、確認できなかった。

#### 土壇群(第7・8図 図版12・13)

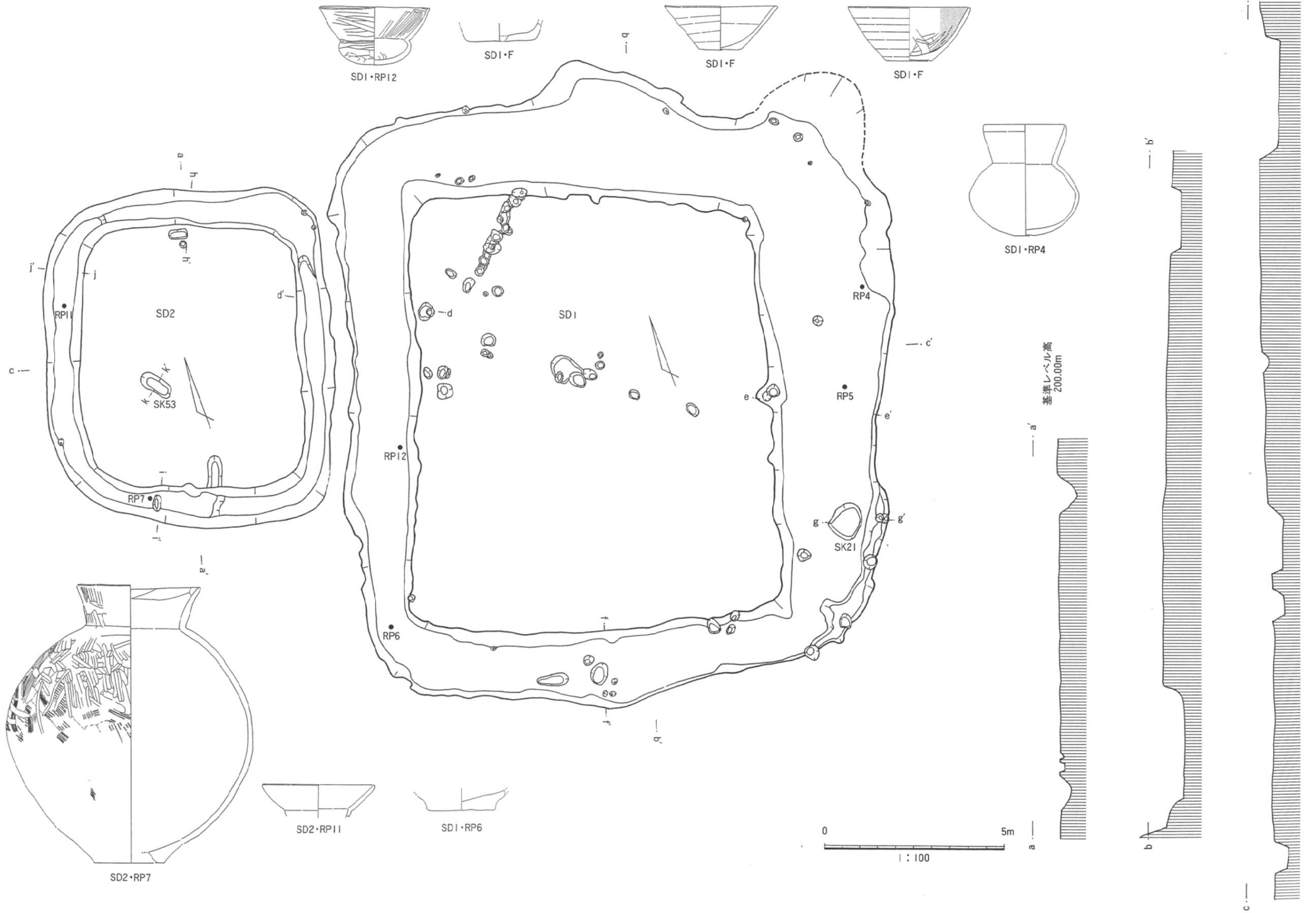
陥穴以外の一群を一括する。出土遺物は、SK32・47から陶磁器片が出土。

#### 土塁(第14・15図 図版8～10)

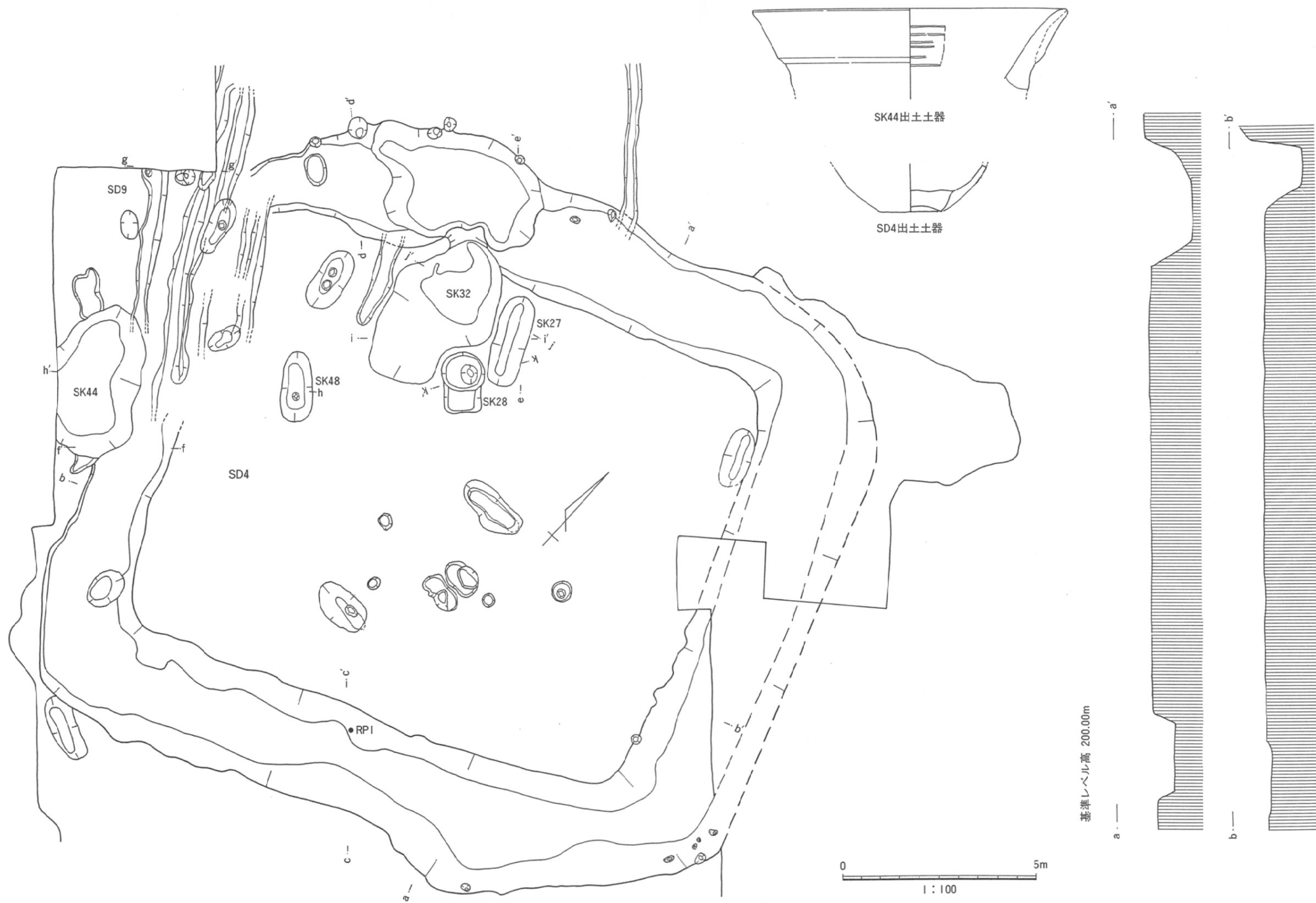
段丘縁辺部からX軸30列付近まで残る。高さ2.2m、上幅1.4m、基底部6.6mを測る。

表一 1 遺構計測表

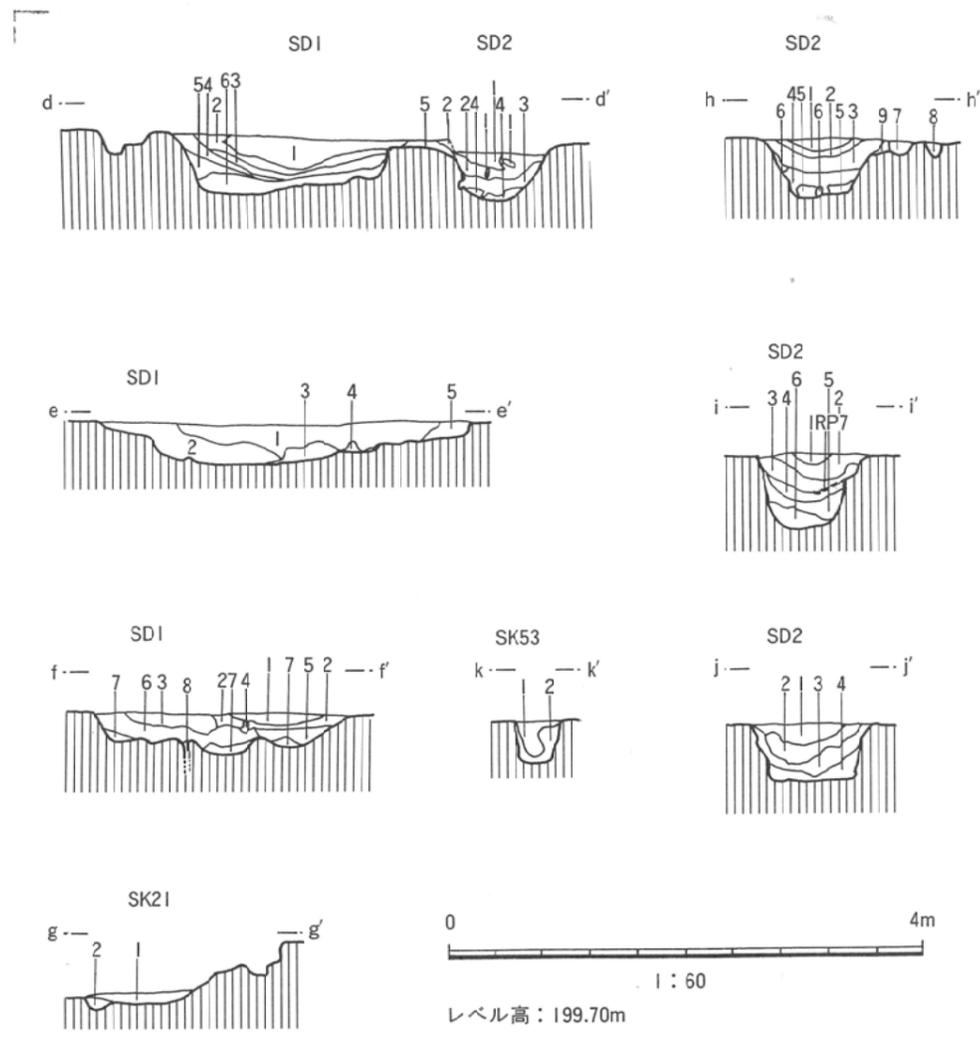
遺構番号	挿図番号	図版番号	検出地区 (グリッド)	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	備 考	長軸×短軸×深さ(cm)
SD1	第7図	4	17～21-8～12	方 形	17.53	15.12	0.52	RP4～6・12出土	
SD2	第7図	4	16～18-8～11	方 形	9.47	8.09	0.61	RP7・11出土	
SD4	第8図	4	11～15-8～12	方 形	(17.30)	17.18	1.04	RP1出土	
SB5	第13図	14	31・32-8		6.68	3.85	0.35		
SB6	第12図	14	34-9・10		3.74	1.82	0.29		
SB7	第13図	14	25・26-8・9		6.31	2.15	0.68		
SK21	第7図	12	20-9	円 形	0.99	0.92	0.16	旧SD1→SK21	
SK23	第4図	7	16-10	楕円形	1.82	0.91	1.22	陥穴	
SK24	第4図	7	15-9	楕円形	1.92	0.90	1.08	陥穴	34×23×22の小穴
SK26	第4図	7	13-10	楕円形	1.78	0.85	0.88	陥穴	
SK27	第8図		12-10	楕円形	2.35	0.87	0.68	陥穴	
SK28	第8図	13	12-9	不整形	1.51	1.12	0.57		
SK30	第4図	7	9-10	楕円形	2.16	0.83	0.91	陥穴	28×26×16の小穴
SK32	第8図	13	12-9	不整形	4.18	2.86	1.03		
SE35	第9図	15	30-9	円 形	2.10	1.93	2.00	礫群	RW3・9出土
SE36	第12図	15	27-9	楕円形	1.66	1.57	1.95		
SE37	第10図	15	26-9	円 形	2.45	2.44	2.15	RQ2・RW8	陶磁器片出土
SE38	第11図	15	22-10	円 形	3.02	2.98	2.55		
SK40	第4図		14-9	楕円形	1.49	0.89	0.71	陥穴	36×27×19の小穴
SK41	第4図	7	12-9	楕円形	1.66	0.76	0.68	陥穴	31×27×18、23×19×17の小穴
SK44	第8図	13	12-7	不整形	3.86	2.32	0.44		
SK48	第8図	13	12-8	楕円形	1.32	0.79	0.68	陥穴	21×17×19の小穴
SK53	第7図	12	17-8	楕円形	0.95	0.43	0.36		
SD9	第8図		12-8		長さ 7.75	幅 0.52	0.42	耕作等による溝列群	



第5図 SD1・2方形周溝墓 SK21・53土墳

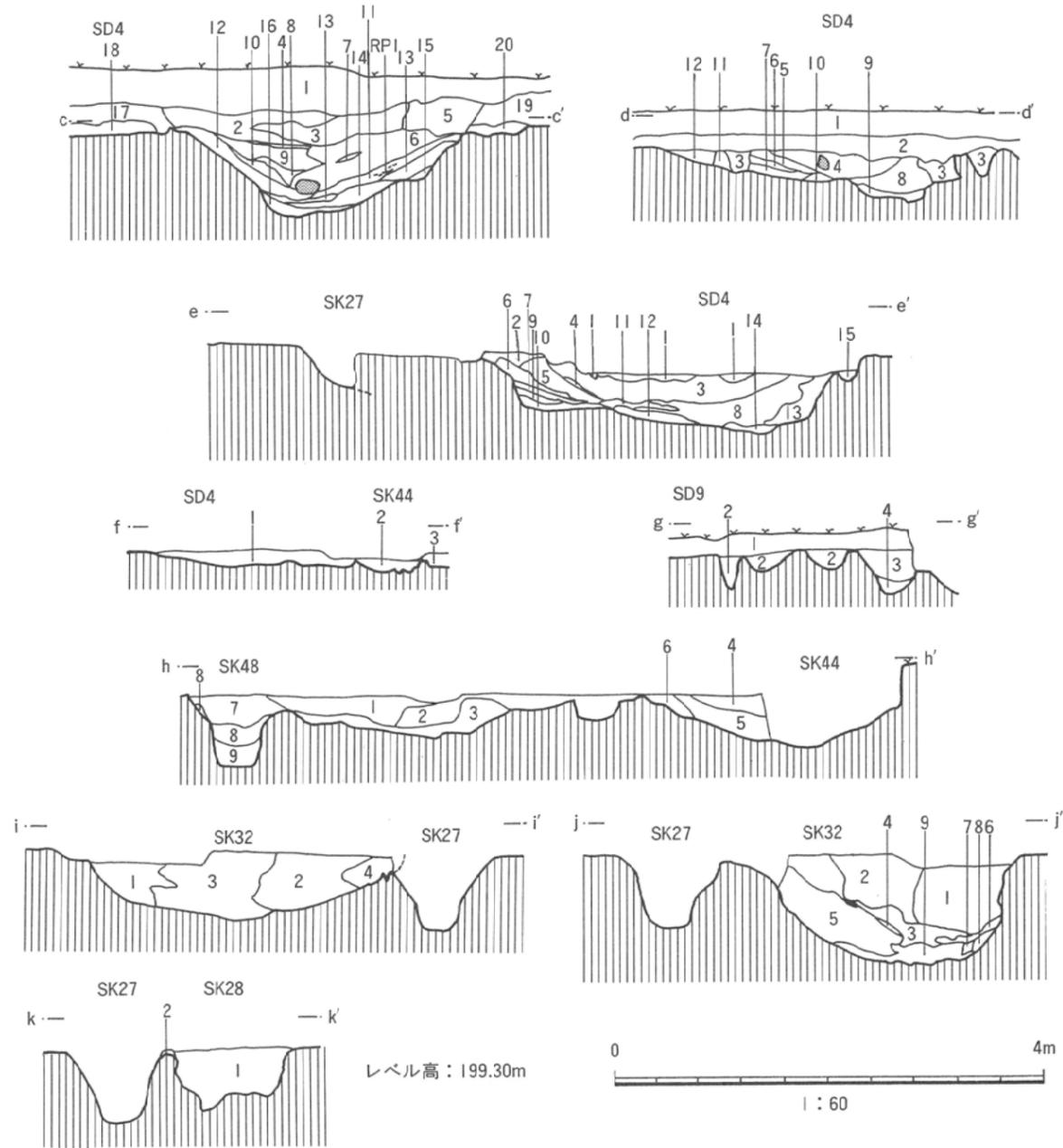


第6図 SD4方形周溝墓 SK28・32・44土坑 SK48陥穴 SD9溝列



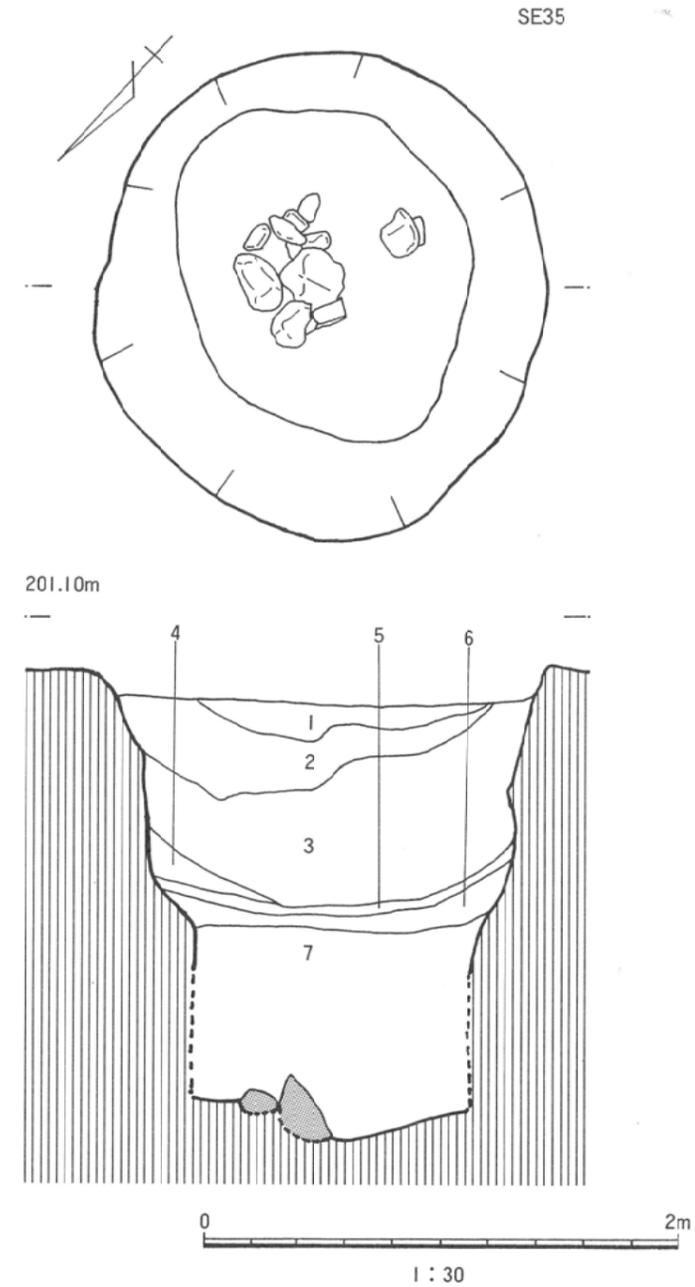
- SD1 土層註記 (d~d')**
- 1: 黒褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 2: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 3: 暗褐色シルト 2よりも暗い色調。
  - 4: 暗黄褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 5: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを少量含む。
  - 6: 暗黄褐色シルト 黄褐色シルトを多量に含む。
- SD1 土層註記 (e~e')**
- 1: 黒褐色シルト 小礫を含む。
  - 2: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを斑状に含み、小礫を少量含む。
  - 3: 暗褐色シルト
  - 4: 暗褐色シルト 小礫を多量に含む。
  - 5: 黄褐色シルト 小礫を含む。暗褐色シルトを含む。
- SD1 土層註記 (f~f')**
- 1: 黒褐色シルト 褐色味を帯びる。
  - 2: 黒褐色シルト
  - 3: 褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 4: 褐色シルトブロック
  - 5: 暗褐色シルト 小礫を含む。
  - 6: 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒を斑状に含む。
  - 7: 暗黄褐色シルト 暗褐色シルト粒を少量含む。
  - 8: 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒を含む。
- SK21 土層註記 (g~g')**
- 1: 暗褐色シルト 炭化物・小礫を少量含む。
  - 2: 黄褐色シルト 黄褐色シルト・暗褐色シルトを斑状に含む。
- SK53 土層註記 (k~k')**
- 1: 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒を含む。
  - 2: 黒褐色シルト 黄褐色砂質シルトブロックを斑状に多く含み、小石を少量含む。
- SD2 土層註記 (d~d')**
- 1: 暗褐色シルト 褐色に近い色調。
- SD2 土層註記 (h~h')**
- 1: 黒褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 2: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。SD2 (d~d') 1層。
  - 3: 暗褐色シルト 1よりも若干褐色の色調。小礫を少量含む。SD2 (d~d') 2層。
  - 4: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを少量含む。SD2 (d~d') 3層。
  - 5: 暗黄褐色シルト 黄褐色シルトに暗褐色シルトを含む。SD2 (d~d') 4層。
  - 6: 黄褐色シルト ブロック状。
  - 7: 暗褐色シルト 褐色の色調に近いシルトを含む。
  - 8: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 9: 暗褐色シルト 褐色に近い色調。
- SD2 土層註記 (i~i')**
- 1: 黒褐色シルト 褐色味を帯び、小礫を少量含む。炭化物を少量含む。
  - 2: 黒褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 3: 黒褐色シルト 黄褐色シルトを含む。土器RP7・炭化物を含む。
  - 4: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 5: 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
  - 6: 黄褐色シルト 斑状に黒褐色シルトを含む。
- SD2 土層註記 (j~j')**
- 1: 黒褐色シルト 褐色味を帯び、小礫を少量含む。炭化物を少量含む。
  - 2: 黒褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 3: 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒を含む。
  - 4: 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロックを斑状に含む。

第7図 SD1・2方形周溝墓 SK21・53土層土層断面図



- SD4 上層註記 (c-c')**
- 1: 暗褐色シルト 砂利を含む。
  - 2: 暗褐色シルト 砂利・小礫を多量に含む。
  - 3: 暗褐色シルト 2よりも黒い色調。
  - 4: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。
  - 5: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。大型の礫を含む。
  - 6: 暗褐色シルト 砂利を少量含む。
  - 7: 暗褐色シルト 6よりも黒い色調で砂利を少量含む。
  - 8: 暗褐色シルト 砂利を含む。4よりもやや明るい色調。
  - 9: 暗褐色シルト 9よりもやや黒く、4よりもやや明るい色調。
  - 10: 暗褐色シルト 6に近い色調で、土器を含む。
  - 11: 暗褐色シルト 小礫を含む。
  - 12: 暗褐色シルト 小礫を含む。
  - 13: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 14: 暗褐色シルト 褐色シルトを斑状に含む。小礫を少量含む。
  - 15: 暗褐色シルト 小礫を含む。
  - 16: 暗褐色シルト 3よりも黒い色調。
  - 17: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 18: 暗褐色シルト 2よりもやや明るい色調。砂利を微量含む。
  - 19: 暗褐色シルト 砂利を少量含む。
  - 20: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。
- SD4・SK44 上層註記 (f-f')**
- 1: 暗褐色シルト 褐色シルトを斑状に含む。砂利を含む。
  - 2: 暗褐色シルト 褐色シルト・褐色シルトを斑状に含む。砂利を含む。
  - 3: 暗褐色シルト 褐色シルト・砂利を含む。
- SD9 溝列上層註記 (g-g')**
- 1: 暗褐色シルト 小礫を含む。耕作土。
  - 2: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 3: 暗褐色シルト 小礫を含む。黄褐色シルトを含む。
  - 4: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。
- SK48・44 上層註記 (h-h')**
- 1: 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロックを多量に含む。砂利を多量に含む。
  - 2: 暗褐色シルト 黄褐色シルト・砂利を含む。
  - 3: 暗褐色シルト 黄褐色シルト・褐色シルトを含む。
  - 4: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。
  - 5: 暗褐色シルト 砂利を含む。下部から上部用土。
  - 6: 暗褐色シルト 砂利・黄褐色シルトブロックを含む。
  - 7: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。
  - 8: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。
  - 9: 暗褐色シルト 8よりも褐色味が強く、砂礫を多量に含む。
- SK28 上層註記 (k-k')**
- 1: 暗褐色シルト 砂利を多量に含む。黄褐色シルト・砂利を少量含む。
  - 2: 暗褐色シルト 砂利を少量含む。地山層移層か?
- SD4 上層註記 (d-d')**
- 1: 暗褐色シルト 耕作土・少礫を多量に含む。
- SD4 上層註記 (e-e')**
- 1: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 2: 暗褐色シルト 褐色シルトを斑状に含む。小礫を少量含む。
  - 3: 暗褐色シルト 小礫を含む。
  - 4: 暗褐色シルト 3よりも黒い色調。
  - 5: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 6: 暗褐色シルト 黒褐色シルトを含む。
  - 7: 暗褐色シルト 1に近い色調。
  - 8: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 9: 暗褐色シルト 暗褐色シルト・黄褐色シルトを少量含む。
  - 10: 暗褐色シルト 褐色シルトを含む。
  - 11: 褐色シルト 小礫・暗褐色シルトを含む。
  - 12: 暗褐色シルト 小礫を含む。
- SD4 上層註記 (i-i')**
- 1: 暗褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 2: 暗褐色シルト 褐色シルトを斑状に含む。小礫を少量含む。
  - 3: 暗褐色シルト 小礫を含む。
  - 4: 暗褐色シルト 3よりも黒い色調。
  - 5: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 6: 暗褐色シルト 黒褐色シルトを含む。
  - 7: 暗褐色シルト 1に近い色調。
  - 8: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを含む。
  - 9: 暗褐色シルト 暗褐色シルト・黄褐色シルトを少量含む。
  - 10: 暗褐色シルト 褐色シルトを含む。
  - 11: 褐色シルト 小礫を少量含む。
  - 12: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを部分的に斑状に含む。
  - 13: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを斑状に含む。
  - 14: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを斑状に含む。
- SK32 上層註記 (j-j')**
- 1: 暗褐色シルト 砂利を含む。
  - 2: 暗褐色シルト 褐色味が強く、砂利を多量に含む。黄褐色シルトを斑状に含む。
  - 3: 暗褐色シルト 2よりも黒い色調で、砂利を含む。黄褐色シルトを斑状に含む。
  - 4: 暗褐色シルト 暗褐色シルト・黄褐色シルトを少量含む。
- SK32 上層註記 (i-i')**
- 1: 暗褐色シルト 黒ボク・砂を少量含む。
  - 2: 黄褐色シルト 黒褐色シルト・黄褐色シルトブロックを含む。砂利を少量含む。
  - 3: 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒を含む。砂利・礫を含む。
  - 4: 暗褐色シルト 3よりもやや黒い色調。
  - 5: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを少量含む。
  - 6: 暗褐色シルト 褐色シルト・黄褐色シルトを斑状に含む。小礫を含む。
  - 7: 暗褐色シルト 暗褐色シルトを含む。砂利を含む。
  - 8: 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒を含む。砂利を少量含む。
  - 9: 暗褐色シルト 黄褐色シルトを多量に含む。砂を少量含む。
  - 10: 暗褐色シルト 黒ボク・褐色シルト・黄褐色シルトブロックを部分的に含む。

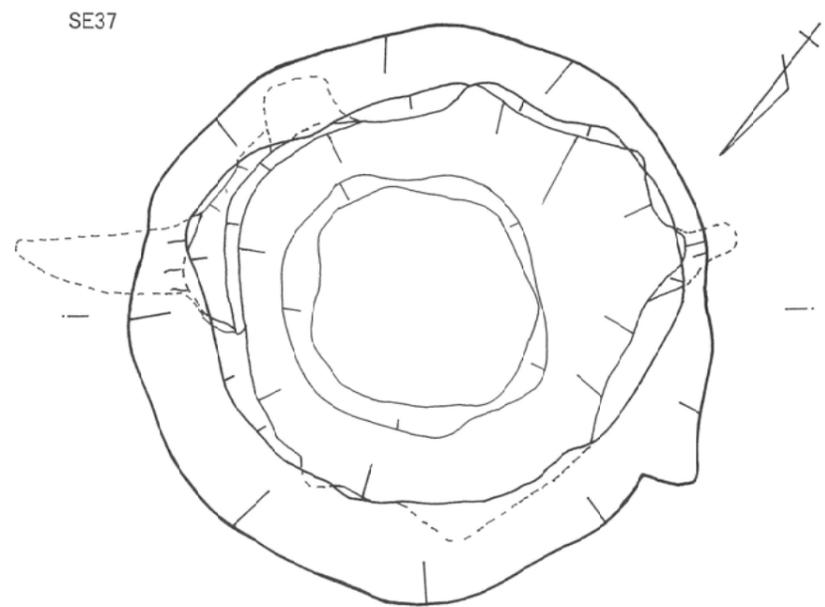
第8図 SD4方形周溝墓 SK28・32・44土壌 SK48陥穴 SD9溝列土層断面図



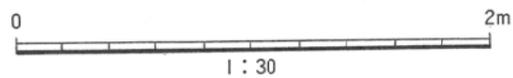
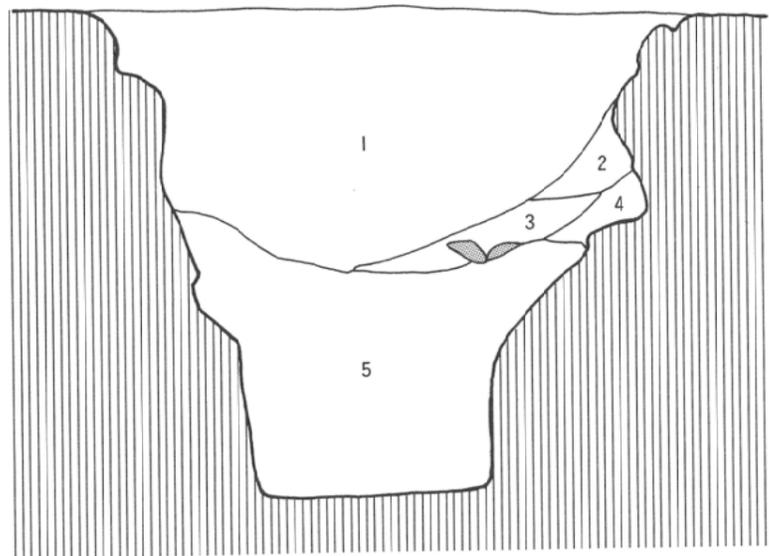
SE35土層註記

- 1: 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
- 2: 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒・暗褐色シルトを含む。
- 3: 黒褐色シルト 黄褐色シルトブロックを斑状に多量に含む。礫を含む。
- 4: 暗褐色シルト 1よりもやや黒っぽい色調。
- 5: 暗褐色シルト 4よりも黒っぽい色調。
- 6: 褐色シルト 黄褐色シルトを含み、下部に酸化鉄を含み、かたくしまっている。
- 7: 黒褐色シルト 青灰色シルトブロックを斑状に含む。砂・泥炭を含む。

第9図 SE35井戸跡



200.60m

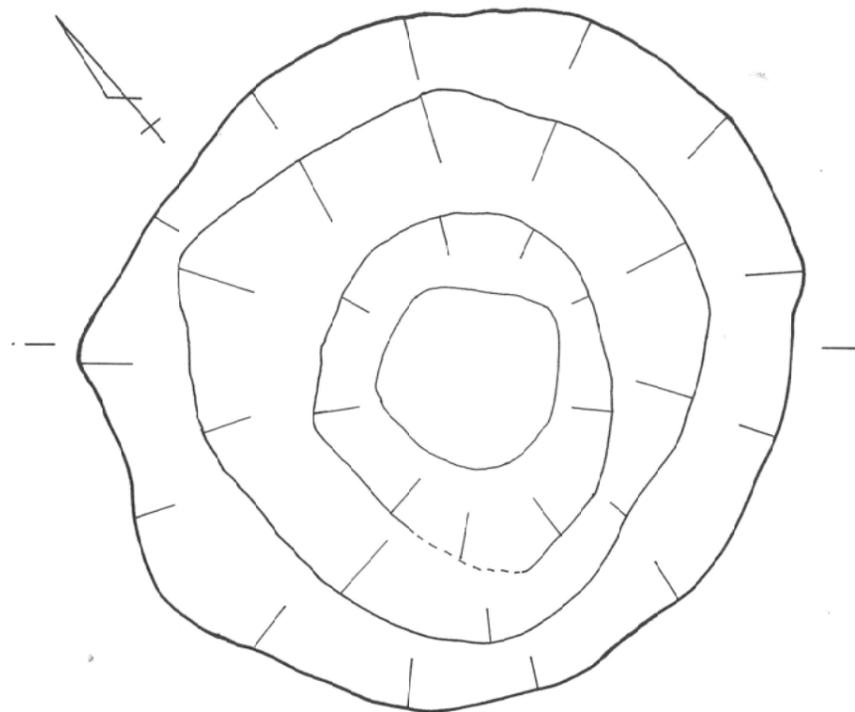


SE37土層註記

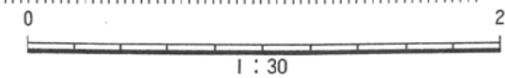
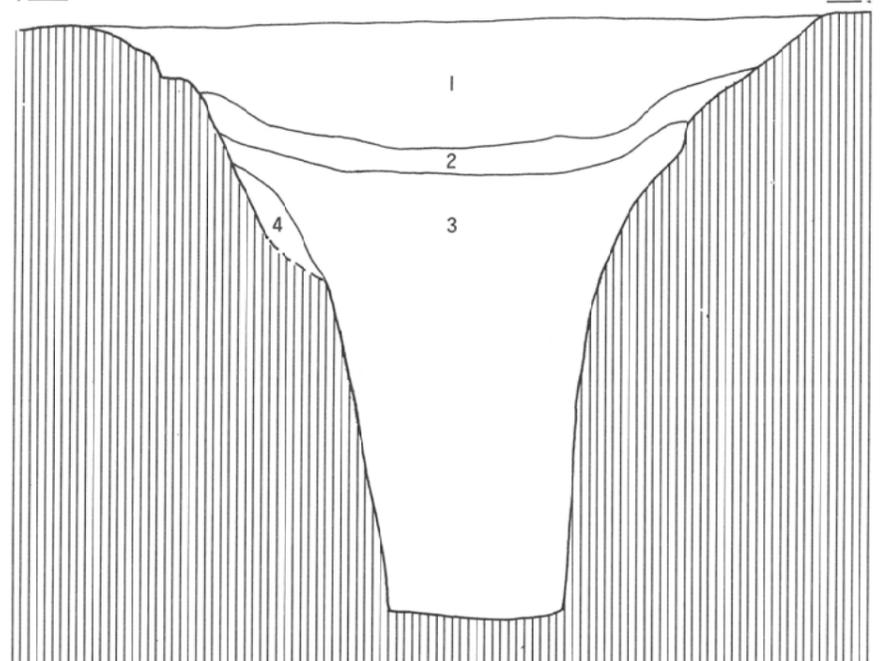
- 1: 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック・小礫を少量含む。
- 2: 濁黄褐色シルト 暗褐色シルトを斑状に含む。
- 3: 暗褐色シルト 砂・小礫・礫を多量に含む。炭化物を含む。
- 4: 暗褐色シルト 黄褐色シルト・小礫・炭化物を少量含む。
- 5: 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒・小礫を含み、やや黒い色調。上部に堅い酸化鉄の層を堆積する。

第10図 SE37井戸跡

SE38



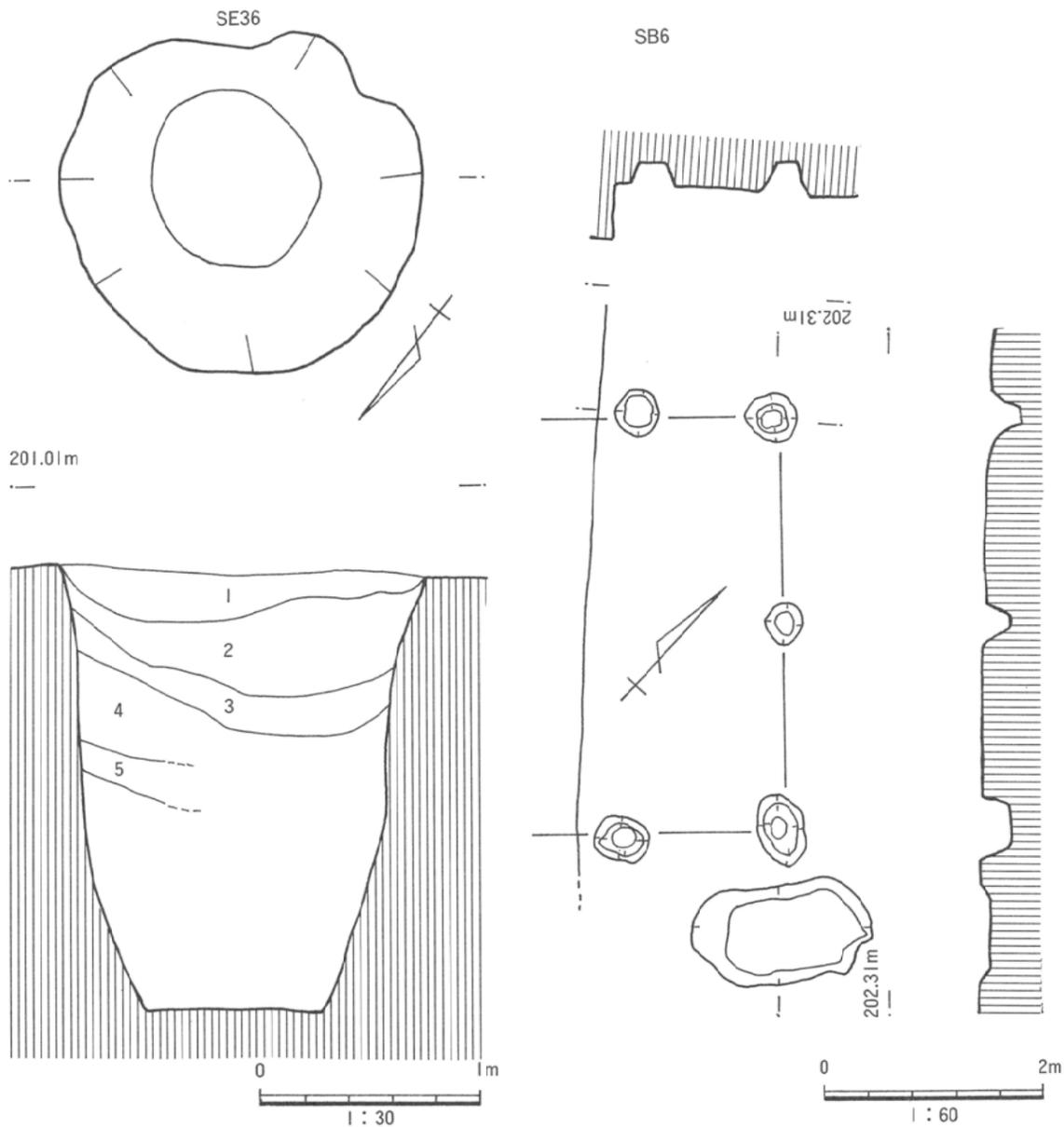
200.10m



SE38土層註記

- 1: 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロック・小礫・炭化物を少量含む。
- 2: 暗褐色シルト 黄褐色シルトブロックを斑状に含む。
- 3: 暗褐色シルト 黄褐色シルト粒を含み、小礫を少量含む。
- 4: 濁黄褐色シルト 酸化鉄・暗褐色シルトを多量に含む。

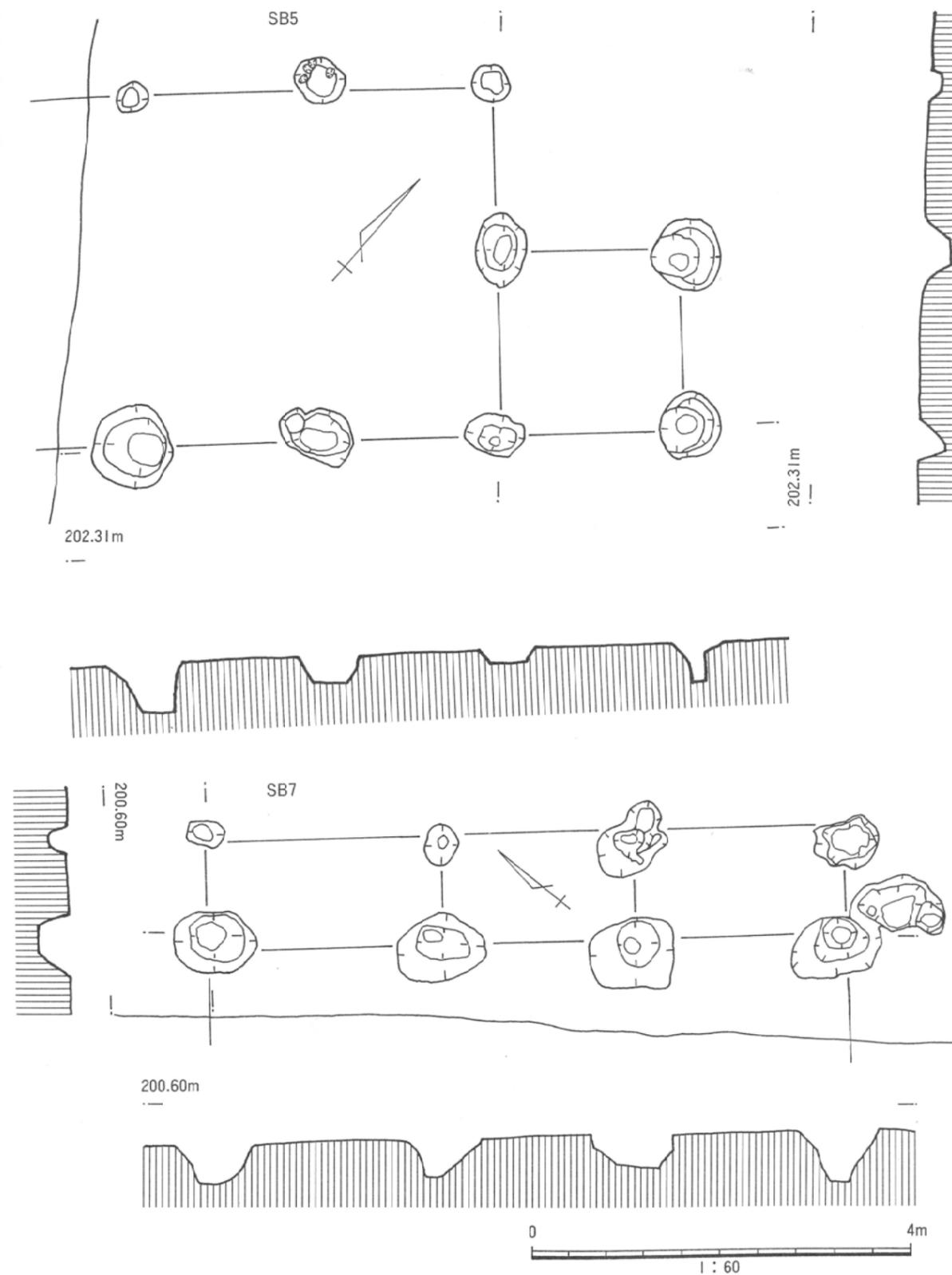
第11図 SE38井戸跡



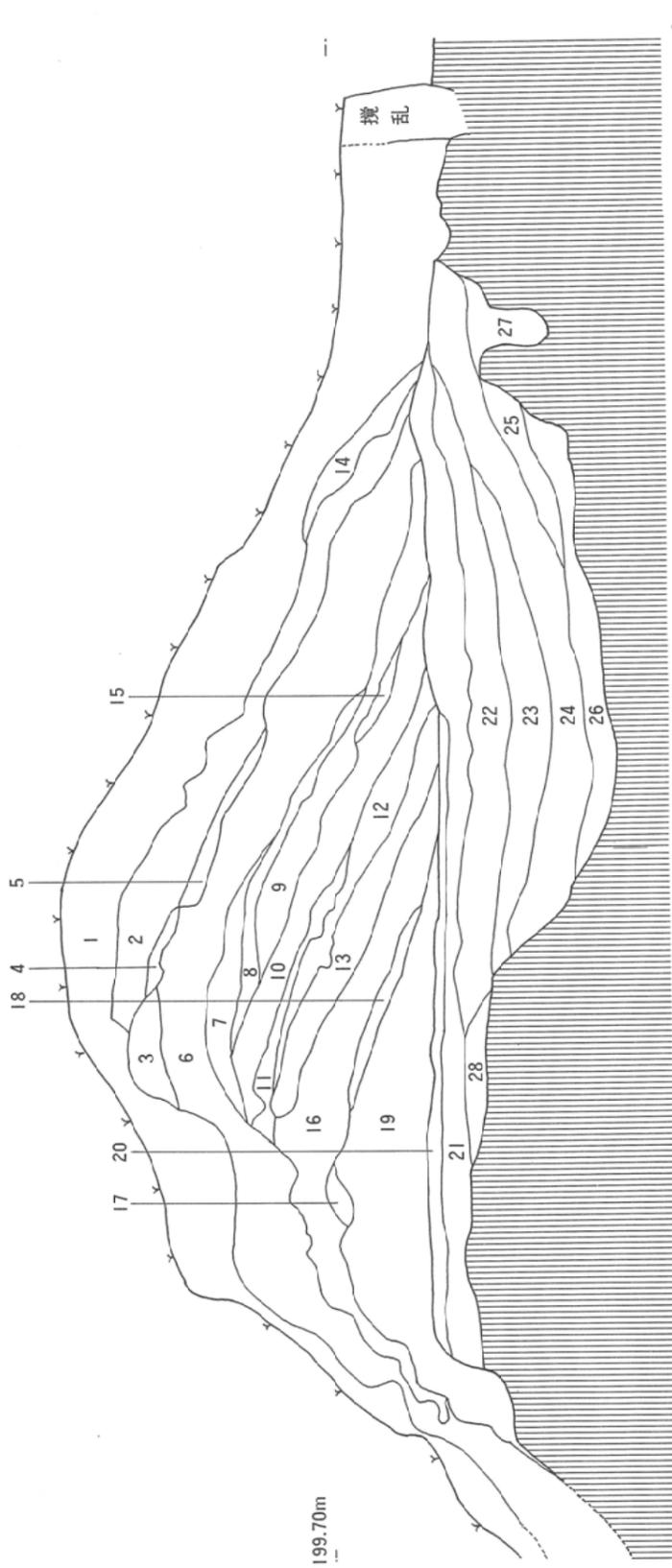
SE36土層註記

- 1: 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒・砂利を含む。
- 2: 濁黄褐色シルト 黄褐色シルトブロック・暗褐色シルトの混じり。砂利を含む。
- 3: 黒褐色シルト 中央に黄褐色シルト・小石混じりのブロックをレンズ状に堆積する。
- 4: 暗黄褐色シルト 小石・砂を含む。
- 5: 黒褐色シルト 黄褐色シルト粒・炭化物を含む。

第12図 SE36井戸跡 SB6建物跡



第13図 SB5・7建物跡



土層土層註記

- 1: 暗褐色シルト
- 2: 黄褐色シルト
- 3: 黄褐色シルト
- 4: 黄褐色シルト
- 5: 黄褐色シルト
- 6: 黄褐色シルト
- 7: 黄褐色シルト
- 8: 黄褐色シルト
- 9: 灰褐色細砂質シルト
- 10: 黄褐色シルト
- 11: 黄褐色シルト
- 12: 黄褐色シルト
- 13: 黄褐色シルト
- 14: 黄褐色シルト
- 15: 黄褐色シルト
- 16: 黄褐色シルト
- 17: 黄褐色シルト

- 18: 黄褐色シルトを部分的に含む。
- 19: 黄褐色シルトを少量含む。
- 20: 黄褐色シルトを少量含む。
- 21: 黄褐色シルトを少量含む。
- 22: 黄褐色シルトを少量含む。
- 23: 黄褐色シルトを少量含む。
- 24: 黄褐色シルトを少量含む。
- 25: 黄褐色シルトを少量含む。
- 26: 黄褐色シルトを少量含む。
- 27: 黄褐色シルトを少量含む。
- 28: 黄褐色シルトを少量含む。

- 18: 暗褐色シルト
- 19: 暗褐色シルト
- 20: 暗褐色シルト
- 21: 暗褐色シルト
- 22: 暗褐色シルト
- 23: 暗褐色シルト
- 24: 暗褐色シルト
- 25: 暗褐色シルト
- 26: 暗褐色シルト
- 27: 暗褐色シルト
- 28: 暗褐色シルト

1~19まで土層盛り土

第14図 土層土層断面図

2 遺物 (第15図 図版16~19 表2)

土器 (第15図1~10 図版16・17)

縄文時代の土器は深鉢の底部片(7)で、地文は、不明である。

古墳時代の土器器は、罎(1・8・9)・壺(2・6・10)で方形周溝墓の溝の覆土出土である。罎は、頸部のくびれから口縁部が大きく外反し、体部の扁平な小形丸底で、底部に丸いへこみを有するもの(9)もみとめられる。(1)は、体部から口縁部は横ないし斜め方向のヘラミガキが行われ、底部はヘラケズリの痕跡を残す(1・9)。口縁部内面は、頸部内面の稜から縦方向にヘラミガキが行われ、上端で横方向に入る。口縁部は若干内弯して立ち上がり、同端部で緩く外反する。壺は大小に分けられる。(4)は、小形でやや扁平な体部から口縁部が直線的に外傾し、端部で外面から内傾して薄く仕上げ、直立気味に立ち上がる。底部の丸いへこみは、罎に類似する。(6)は大形のもので、若干細みがあった球形の体部で頸部から直立気味に立ち上がり、口縁部下から少し外反して開く。口縁部から体部上半は刷毛目・ヘラケズリ・ヘラミガキが行われ、部分的に体部上半は光沢を呈する。下半は、器面が荒れて刷毛目の痕跡を留めるのみである。底部は、体部からくびれて、外周部が若干突き出て作られる(2・6)。残存部分が少なく、底部穿孔の有無は不明である。複合口縁壺(10)は、口縁部が肥厚して下に段をつくる。口縁部の立ち上がりは、(6)に類似するものと考えられる。内面は、横方向の刷毛目調整である。

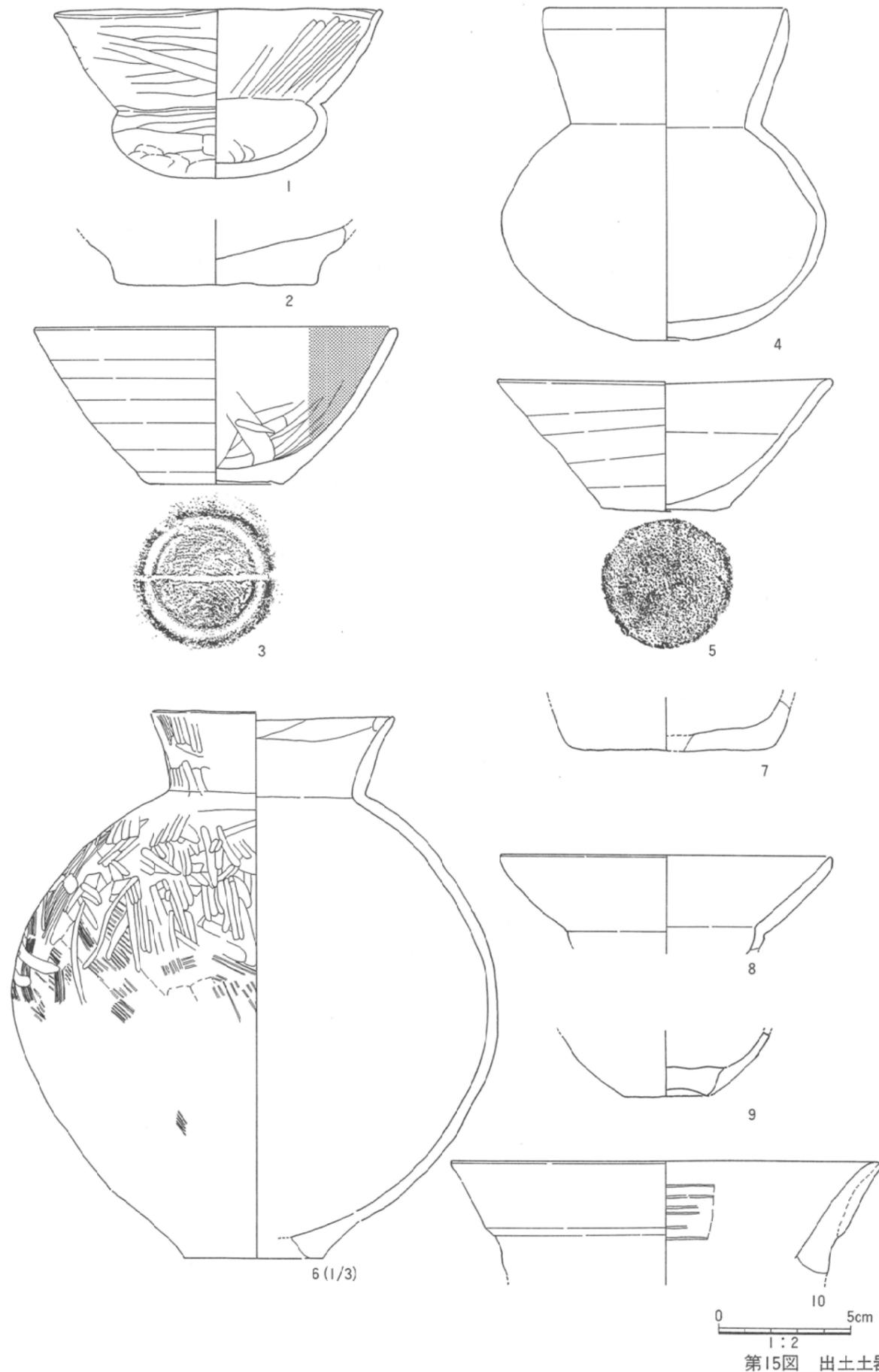
平安時代の土器は、方形周溝墓の溝の覆土上部から出土の土師器高台杯(3)、赤焼土器杯(5)である。(5)は、底面にナデが入り明瞭ではないが、両方ともロクロ成形で、底部回転糸切り離しと考えられる。

陶磁器 (図版18)

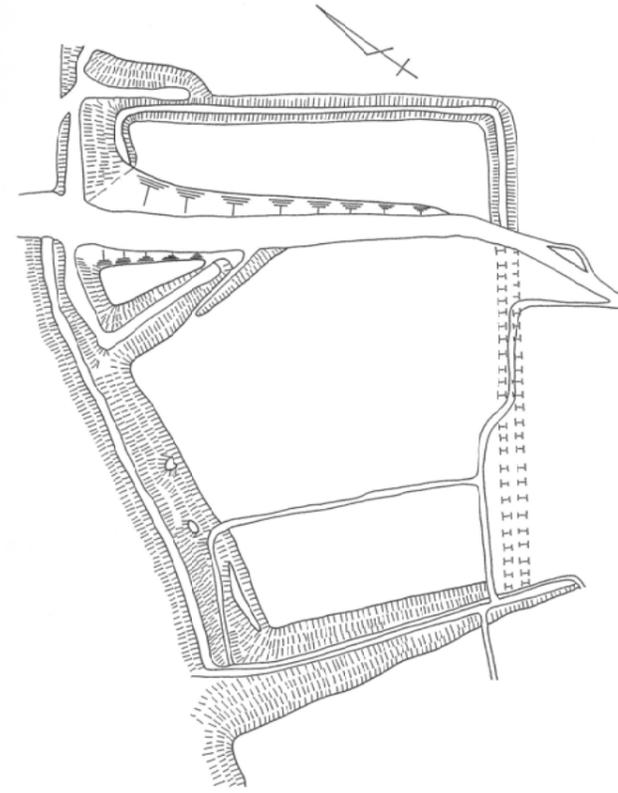
瀬戸系の皿・碗・鉢類で、出土数は少ない。染付輪花皿や鉄釉を施した碗類がみとめられる。また、土層表土出土の行火の一部と推定されるものがある。

表一2 遺物計測表

器種	器形	挿図番号	図版番号	出土位置	計測値 (mm)				備考
					口径	底径	器高	器厚	
土師器	罎	15-1	16	SD 1	122	—	65	3	RP12
土師器	壺	15-2	17	SD 1	—	(78)	(22)	7	RP 6
土師器	高台付杯	15-3	17	SD 1	138	51	60	4	ロクロ成形 底部回転糸切り離し
土師器	罎	15-4	17	SD 1	(91)	21	(126)	5	RP 4
赤焼土器	杯	15-5	17	SD 1	128	47	50	4	ロクロ成形 底部回転糸切り離し
土師器	壺	15-6	16	SD 2	140	78	310	6	RP 7
縄文土器	深鉢	15-7	18	SD 1	—	(76)	(19)	5	
土師器	罎	15-8	17	SD 2	(126)	—	(37)	4	RP11
土師器	罎	15-9	17	SD 4	—	32	(24)	3	
土師器	壺	15-10	17	SK44	(163)	—	(42)	10	
木製品	板		19	SE35	長径 215	短径 198	器厚 11	重量 760g	RW 9
木製品	塗碗		19	SE35	(150)	78	(73)	(11)	RW 3
木製品	横槌		19	SE37	直径 81.5	全長 369	—	重量 1175g	RW 8 握り部 直径39.8mm 長さ161mm 重量175g
木製品	横棧		19	SE35	長さ 695	幅 84	厚さ 16	重量 1120g	
石製品	石臼		19	SE37	長径 (270)	—	121	重量 4100g	RQ 2 貫通孔の直径13.5mm



第15図 出土土器



木製品 (図版19)

塗椀、横槌、楕円形の板、ほぞをもつ  
 板材である。塗椀は、割り物の漆器で高  
 台部に切り込みが入り、体部には朱で円  
 文に花か文字様の図柄が描かれている。  
 横槌は、内反りで表面が一部剥落し、槌  
 部分には直線的な傷がみとめられる。楕  
 円形の板は、外形から木製容器の底板を  
 想定できる。板材は、側縁の一端は朽ち  
 ているが、その一端にほぞを切り出して  
 いることや、S E 35出土であることから  
 井戸枠の横棧と考えられる。

石製品 (図版19)

S E 37出土の茶臼状の石臼破片である。  
 中央に貫通孔が穿たれ、上面には、放射  
 状に溝が入る。外縁には、溝状に受部が  
 入り、体部下半は、台形の脚を呈する。

第16図 黒藤館跡縄張図  
(白鷹町教育委員会 大木健一氏測図)

III まとめ

- 1 縄文時代は、17基を数える陥穴群の検出である。細長い楕円形の掘り込みで、長軸の長さ2m・深さ1m前後、底面には1・2個の小ピットがみとめられる。獣道に掘ったのか、台地上に点々と連続する。出土遺物は確認できず、時期詳細は不明である。
- 2 古墳時代は、3基の方形周溝墓群である。内径の大きさは6~14mで、溝の深さは、10cm~1m、幅も1~3mと一様ではない。主体部は、確認できなかった。SD1・2は、近接して平行に並び被葬者間の関連性が考えられる。時期は、底部丸底の扁平な埴や小形壺、体部略球形及び複合口縁壺の出土土器の特徴から塩釜式第II段階併行、古墳時代前期(4世紀代)の所産と考えられる。
- 3 平安時代は、SD1北東部土塁下まで延びるプランの膨らみ及び土師器高台付坏や赤焼土器坏の出土土器の内容から、重複する住居跡等の所在が考えられる。
- 4 館に関連するものは、土塁や掘立柱建物跡・井戸跡・柱穴群である。土塁は、SD1・4上に重複して盛土によって構築される。井戸跡は、素掘りで、直線上に並ぶ。中からは、陶器・木製品が出土した。陶器の特徴から近世以降の時期が考えられる。中世までさかのぼる資料は確認できなかった。

参考文献  
 宮城県教育委員会, 1985年, 『今熊野遺跡 一本杉遺跡 馬越石塚』, 宮城県文化財調査報告書第104集。  
 財団法人山形県埋蔵文化財センター, 1993年, 『岡ノ台遺跡調査説明資料』。

報告書抄録

ふりがな	くろふじたてあとほつくつちょうきほうこくしょ
書名	黒藤館跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第16集
編著者名	名和達朗・渡辺 薫
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301
発行年月日	西暦1994年3月31日

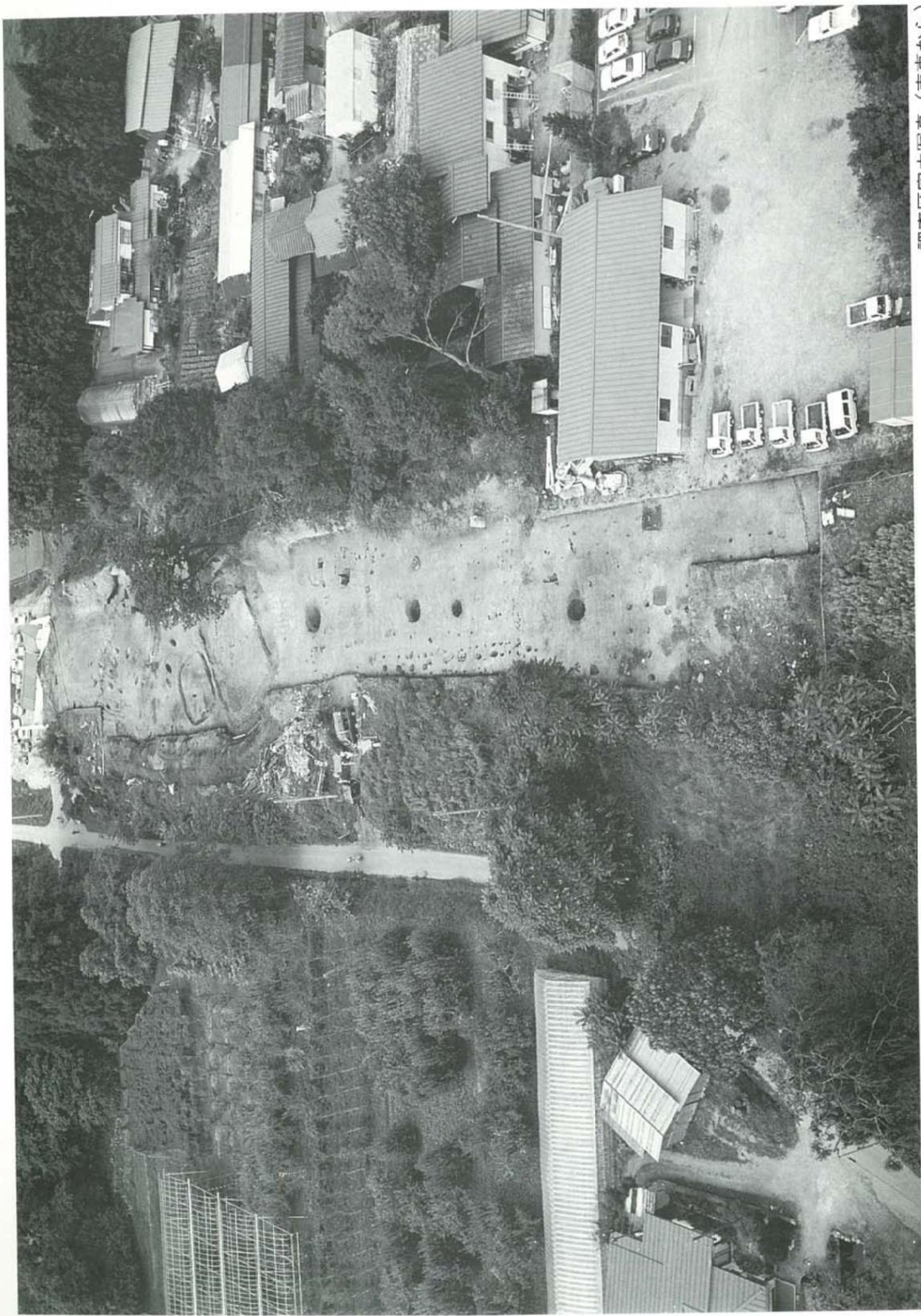
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くろふじたて 黒藤館	やまがたけんにしおきたま 山形県西置賜 ぐんしらたかまらおおあざ 郡白鷹町大字 くろふじあざたてのうち 畔藤字館ノ内	6402	平成4年 度登録	38度 10分 02秒	140度 05分 39秒	19930726～ 19931001	2,770	一般県道南陽 白鷹線緊急 地方道路整 備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒藤館	集落跡	縄文	陥穴 17	縄文土器	山形県南西部、最上川 右岸の河岸段丘上に立 地する。調査の結果、 四つの時代の遺構・遺 物群がみつめられた。 縄文時代は列状に分布 する陥穴群(Tpit)、 古墳時代は、方形周溝 墓群で、覆土内から古 墳時代前期と考えられ る土師器が出土した。 平安時代は、土師器・ 赤焼土器、坏各1点。 中・近世は館に関連す ると考えられる土壘・ 掘立柱建物跡・井戸跡 が検出された。
	墳墓	古墳 前期	方形周溝墓 3	土師器 罎・壺・甕	
	城館跡	平安		土師器・赤焼土器 坏	
		中・近世	掘立柱建物跡 3 井戸跡 4 土壘 5 柱穴 土壘 空堀	陶磁器 木製品 塗椀・横槌 石製品 石臼	

図 版



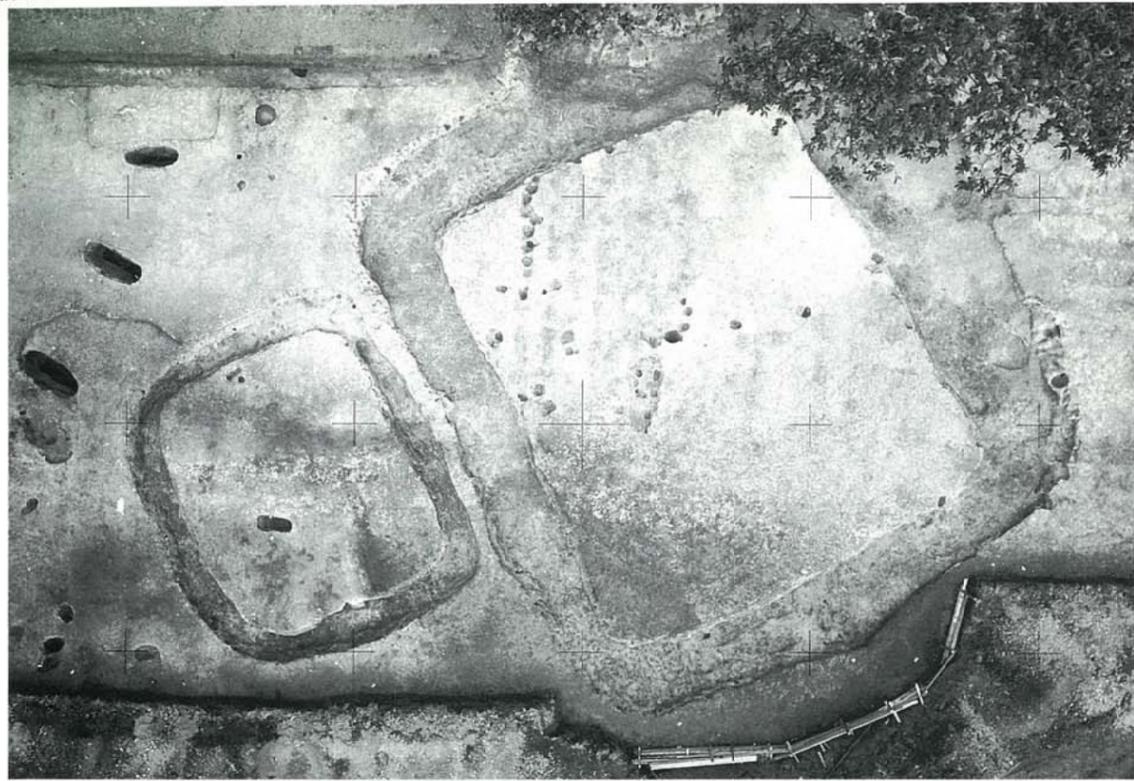
航空写真 (S = 1 : 8,000 高度 1,380m)  
写真提供 : 県土木部長井建設事務所



調査区空中写真(南東から)



調査区西側空中写真(北西から)



SDI・2方形周溝墓全景



SD4方形周溝墓全景



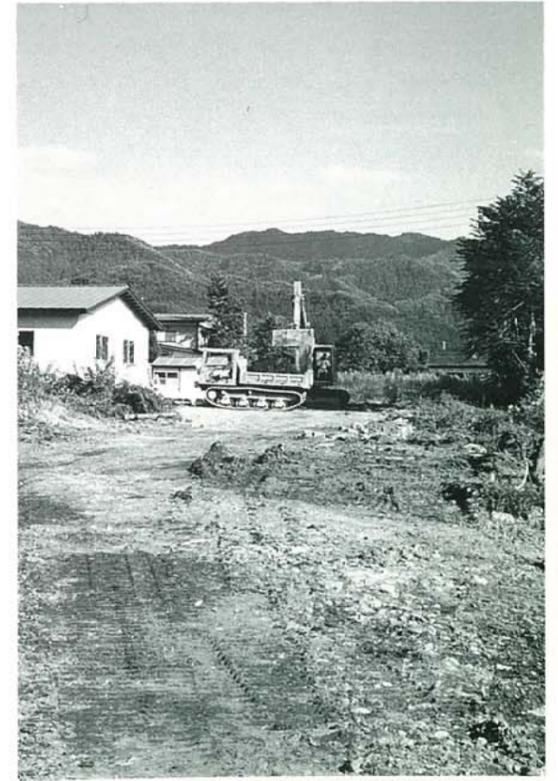
遺跡遠景（北西から）



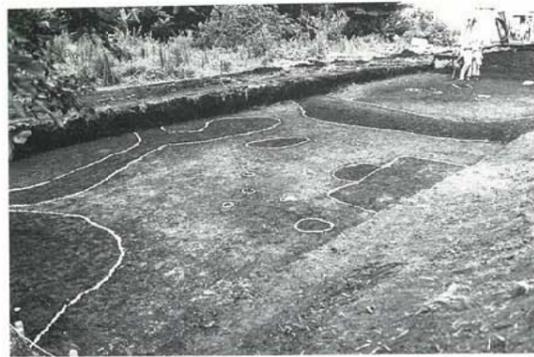
調査前風景（北から）



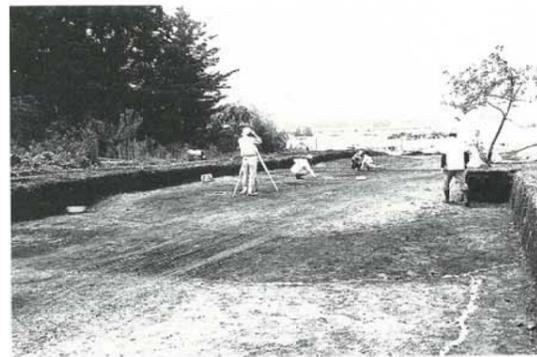
ジョレンによる面整理（南東から）



重機による表土除去作業（北西から）



遺構検出状況 (東から)



グリッド設定作業状況 (東から)



SD1方形周溝墓調査風景 (北西から)



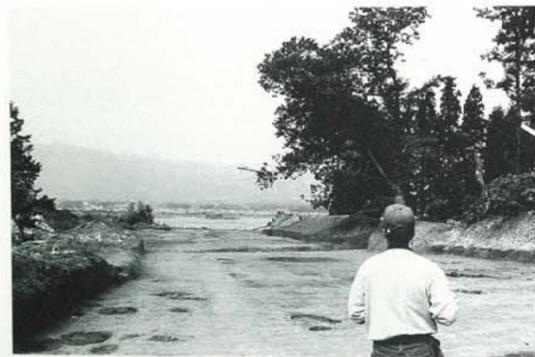
SD4方形周溝墓調査風景 (東から)



土壘縦断面掘り下げ作業 (西から)



調査説明会 (北から)



空撮委託状況 (南東から)



埋め戻し作業状況 (東から)



SK23陥穴土層断面 (南から)



SK26陥穴土層断面 (西から)



SK23陥穴 (北から)



SK26陥穴 (西から)



SK30陥穴土層断面 (南東から)



SK24陥穴土層断面 (南から)



SK30陥穴 (南東から)



SK41陥穴土層断面 (北から)



土 壘 (西から)



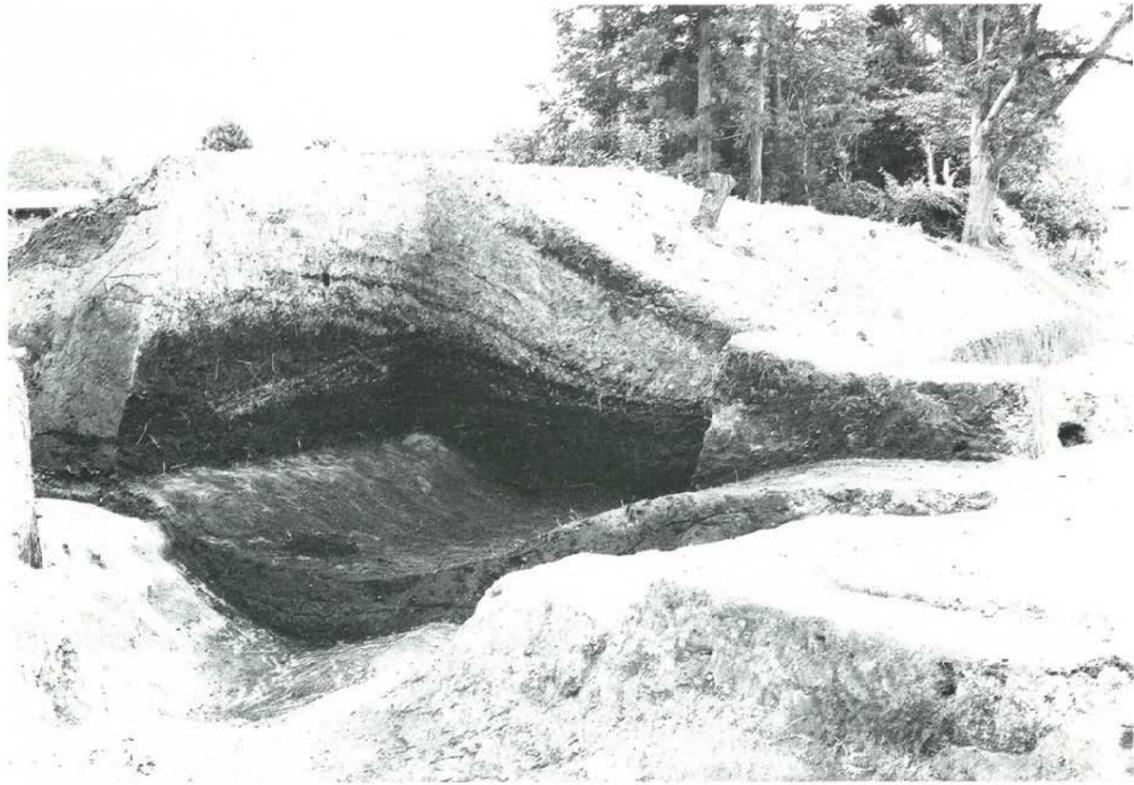
土 壘 (南から)



土壘調査状況 (南東から)



土壘土層断面 (西から)



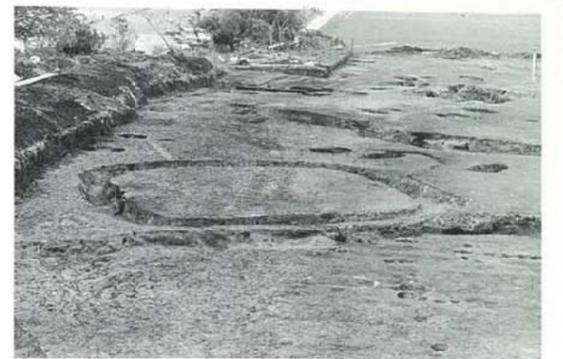
土壘土層縦断面（西から）



方形周溝墓群全景（南東から）



SD1方形周溝墓（北から）



SD2方形周溝墓（南東から）



SD1・SD2 d-d' 土層断面（北から）



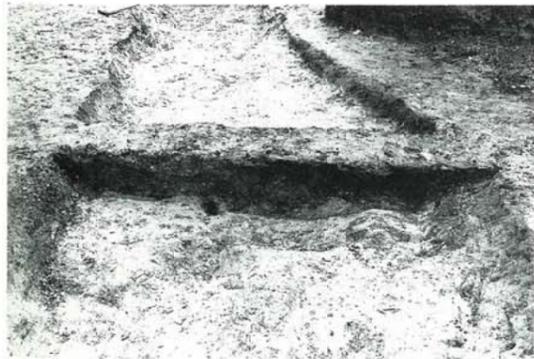
SD2 h-h' 土層断面（西から）



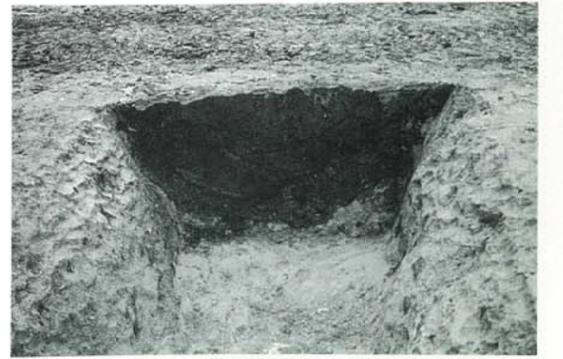
SD1 e-e' 土層断面（南西から）



SD2 i-i' 土層断面（西から）



SD1 f-f' 土層断面（西から）



SD2 j-j' 土層断面（東から）



SK21 g-g' 土層断面 (西から)



SK53 k-k' 土層断面 (南から)



SD1 方形周溝墓調査風景 (北から)



SK53完掘 (南から)



SD4 方形周溝墓全景 (東から)



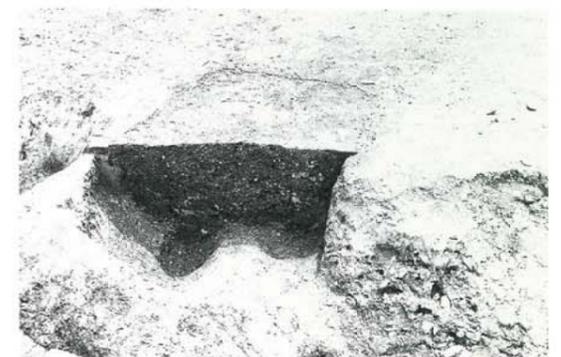
SD4 方形周溝墓全景 (南東から)



SD4 c-c' 土層断面 (北東から)



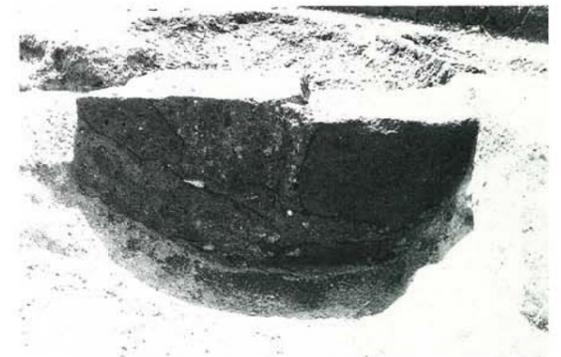
SD4 e-e' 土層断面 (北東から)



SK28 k-k' 土層断面 (南東から)



SK44·48·SD4 h-h' 土層断面 (西から)



SK32 J-J' 土層断面 (北から)



SK44·48完掘 (西から)



SK32完掘 (北から)



井戸跡群・掘立柱建物跡（北西から）



SB5建物跡（北東から）



SB6建物跡（北から）



SB7建物跡（北から）



SB5・6建物跡（北西から）



SE35井戸跡土層断面（北西から）



SE36井戸跡土層断面（北西から）



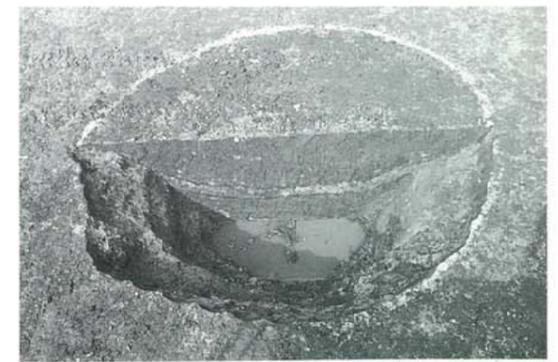
SE35井戸跡完掘（北西から）



SE36井戸跡完掘（北西から）



SE37井戸跡土層断面（北西から）



SE38井戸跡土層断面（西から）



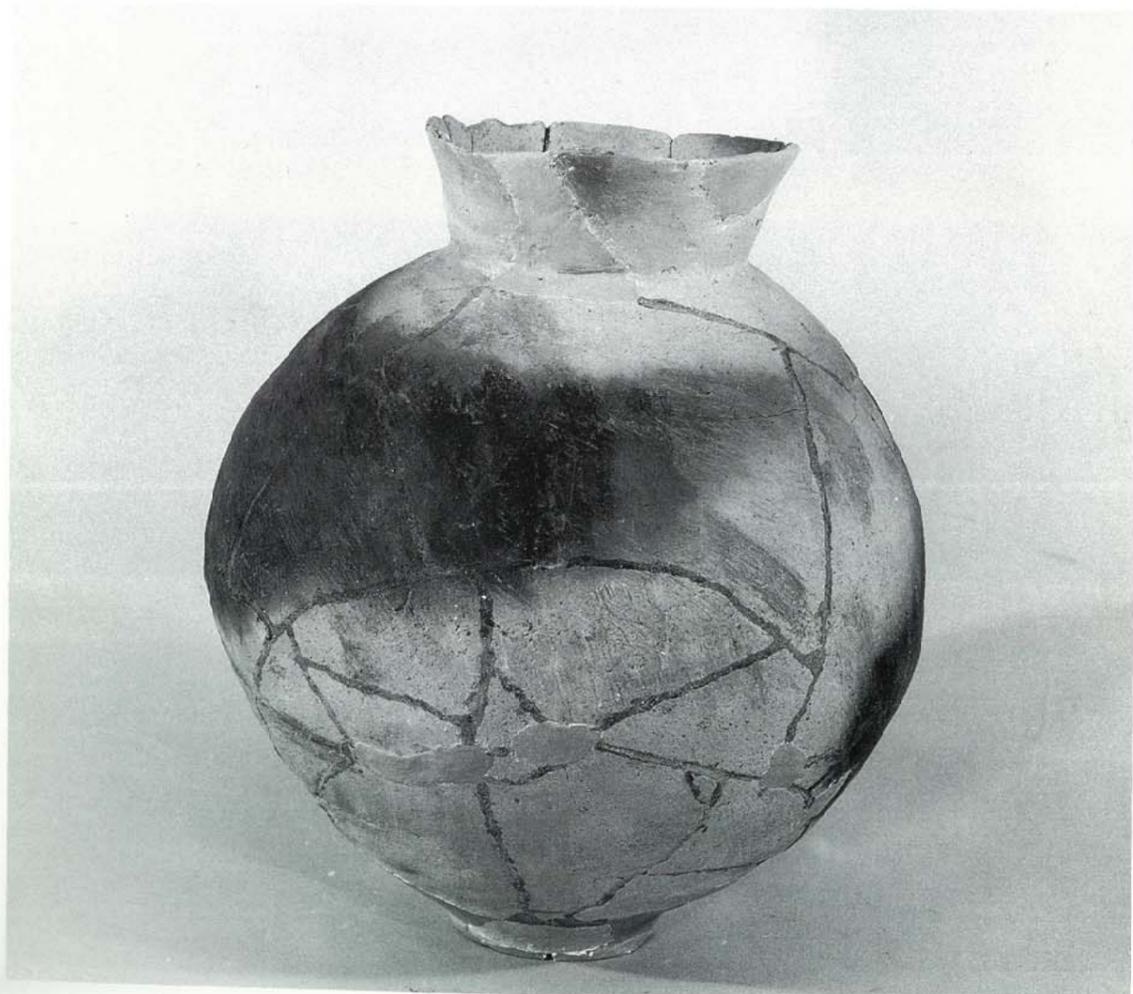
SE37井戸跡完掘（北西から）



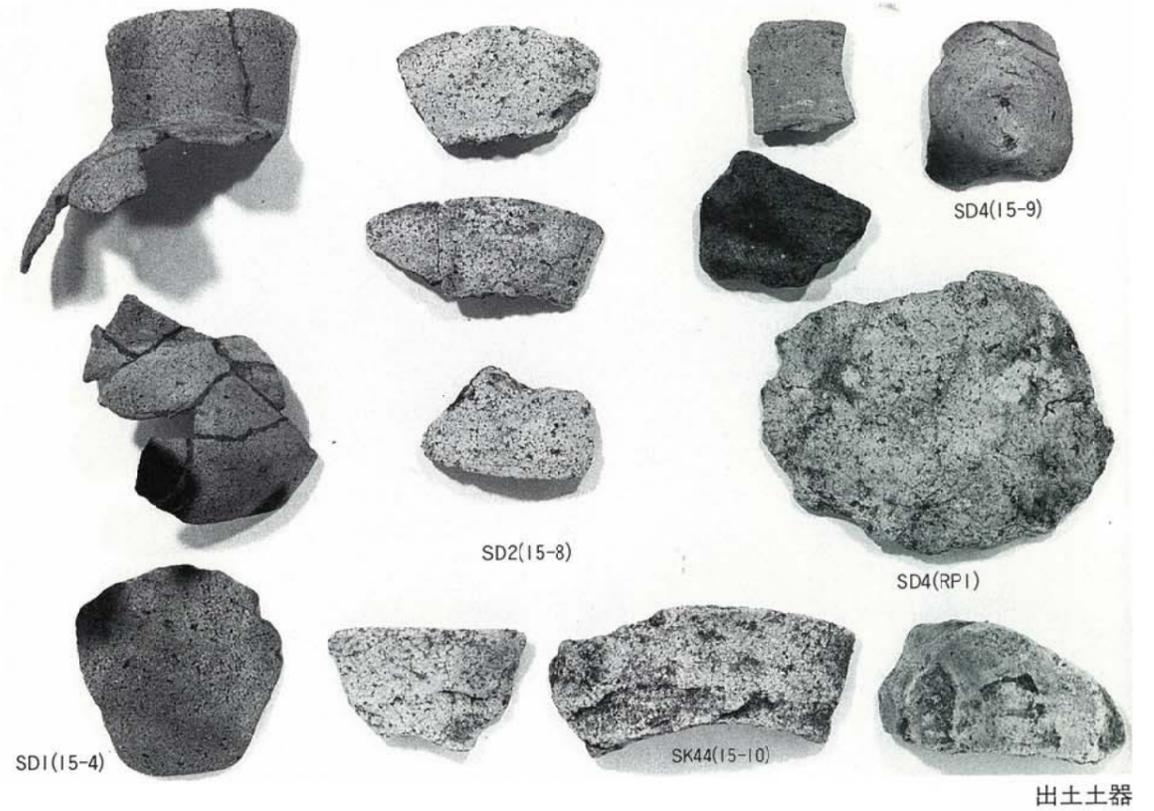
SE38井戸跡完掘（西から）



SD1出土土器 (15-1)



SD2出土土器 (15-6)



SD1(15-4)

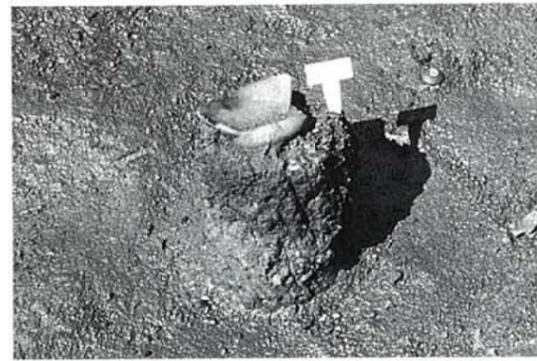
SD2(15-8)

SD4(15-9)

SD4(RP1)

SK44(15-10)

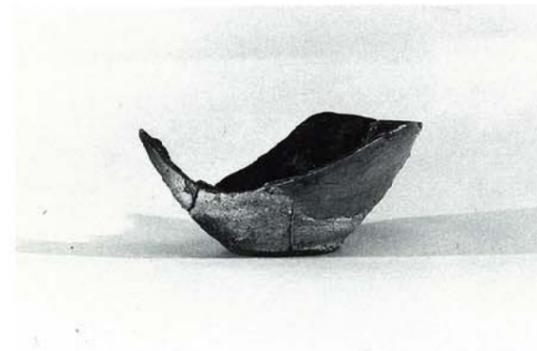
出土土器



SD1 (15-1) 出土状况



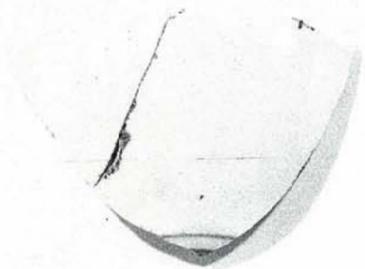
SD2 (15-6) 出土状况



SD1出土土器 (15-3)



SD1出土土器 (15-5)



15-7



SD1



土壘



SK47



SE37



SK32

出土土器・陶磁器



同上内面



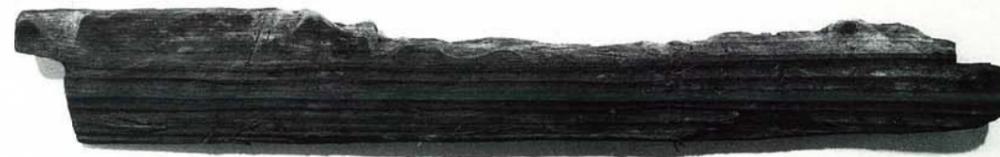
SE35出土塗椀



SE35出土板



SE37出土横槌



SE35出土横棧



SE37出土石臼



同・上面

---

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第16集

くろふじたてあと  
黒藤館跡発掘調査報告書

1994年3月31日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター  
〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号  
電話 0236-72-5301  
印刷 山形印刷株式会社

---